

平成12年度
2000

研究紀要

- インターネットを活用した交流学习についての研究 -

小値賀町立小値賀中学校
六島分校

はじめに

めまぐるしく進歩・発展を遂げてきた20世紀も、今年度中に終止符を打ち新しい世紀の21世紀へと足を踏み入れた。20世紀は得たものも多いが、失ったものも多い。21世紀の社会の変化は、さらに複雑でめまぐるしいものになるであろう。失ったものを取り戻しつつ、社会の変化に対応していく個々人に必要な能力とは何であろうか。それは、しっかりとした基礎・基本に裏付けされた、「自ら課題を見つけ」「自ら考え」「自ら学ぶ」姿勢であろう。生涯学び続ける姿勢を持たなければ、急激な変化に対応することはできない。

急激な社会の変化に取り残されない、豊かな心を持った社会人を育成することが大切である。新しい学習指導要領が示した選択教科の時数の増加や新設された総合的な学習の時間は、個性の伸長を促しながら正にそのことをねらったものであると考える。

本分校は、生徒数3名(3年生女子2名)(2年生男子1名)という極小規模の学校である。ほとんどの授業が、生徒対大人の教師1対1で行うために、同世代の他の人の考えを聞く機会が皆無といってよい。自分の考えを述べたら大人である教師の教科書的な答えが返ってくることが多い。正答であれ、誤答であれ、他人の意見を聞いてさらに自分の考えを深めたり、広げたりすることはできない。生徒の望ましい人間性の育成を目指すならば、その環境を出来得る限り作ってやる責任がある。

昨年度、私たちは、コンピュータやインターネットを通して「主体性や創意工夫する支援のあり方」というテーマでコンピュータに関する研修に着手した。今年度は、さらにそれを実践化すべく「インターネットを活用した交流学习についての研究」というテーマを設定して取り組みを進めてきた。幸いなことに、県よりテレビ電話を借用することができ、総合的な学習の中で、また、特別活動の集会活動の中で、さらにいくつかの教科の中でホームページや電子メール、テレビ電話等の利用を通して栃木県の西方中学校と交流実践をすることで研修を深めることができた。

3名の生徒の成長とともに、私たち教師側の高まりも確信することができた。係を中心に、それぞれが同じ目標に向けて取り組むことの大切さも学ぶことができたと考える。この一年間の足取りを紀要にまとめて、次のステップへの一財産として残したい。

平成13年3月

教頭 岩本光之

1 研究の概要

1.研究主題

インターネットを活用した交流学习についての研究

2.主題設定の理由

(1) 生徒の実態から

少人数が故に、一人一人の個性・特性に応じた指導や習熟度にあわせた個別指導がしやすい反面、幼少よりずっと同じ環境で育ったせいもあってか、多様な考えが出せず、創意工夫する力が乏しい。生徒一人一人に能力の差はあるものの、自分の持てる力を十分に発揮できているとは言えない状況である。また、少人数であるためにいろいろな人の意見を聞く機会がないせいもあって、人の意見を聞いて、更に自分の考えを深めたりすることができない。コンピュータ利用の環境が整ってからは、生徒は積極的にコンピュータを利用し、基本的な操作等は十分に身につけてきている。その中で電子メールのやりとりによって多くの人との交流もできてきている。しかし、このような交流が学習の中で十分生かされているとはいえない。

(2) 交流学习の実態から

六島分校では現在月一度の交流学习に加え、昨年度より野外宿泊学習、修学旅行に参加している。月一度の交流学习では、普段あまりすることのない集団行動や、話したことのない友達との会話など生徒にとっては貴重な体験をしている。学習の内容については、進度があっていないことや継続した学習ができない等の問題がある。また、グループ学習など少人数ではなかなか経験しにくい形の学習についてどれだけ参加できているかどうかは疑問である。野外宿泊学習や修学旅行の事前学習についても、本校の先生方にかなり考慮してもらっているものの、組織の編成や見学地調べ、出し物等最初から参加することは難しい状況となっており、当日だけの参加となりがちで、本当の意味で野外活動や修学旅行に参加したとは言えない状況となっている。これらの課題を解決するために、本校での交流学习をふやしたり、行事について準備の段階から参加することが難しいのが現状である。

そこで、本校との交流学习においてインターネットを活用し、共同学習を行ったり、交流学习や行事の前に学習や活動の内容を連絡しあうことにより、さらに意義のある交流学习を行うことが期待できる。また、インターネットを活用することにより、本校に限らず多くの学校とも交流活動を行うことが可能となる。

(3) インターネット活用に関するこれまでの経緯から

平成8年にインターネットに接続できるコンピュータが設置され、その後インターネットを十分に活用できる環境を構築してきた。また、ホームページを開設し平成9年4月以来、20,00件近くのアクセスがある。これまでもホームページを通して様々な交流活動¹⁾を実現してきた。しかし、各教科等での他校の生徒との交流学习を行うまでには至っていない。

今年度には本校にもインターネットに接続できるコンピュータが設置され、来年度中にはすべての学校でインターネットに接続できる環境が整う。設備の面ではインターネットを利用した交流活動を行える条件がそろうことになる。しかし、インターネットを利用した交流学习を実現するためには、その特性を生かした学習内容の研究や、相手校との十分な計画が必要である。

3.研究仮説

インターネットを活用することによって、他校の生徒との交流学习を行えば、多様な考えにふれることで、さらに自分の考えを深めたり、創意工夫する力が養われるであろう。

*1「マー坊のトランペット奮闘記」、緑が丘小とのメールでの交流、横浜市立大探検部との交流、いじめについての意見交換、イタリア松尾さんの来校(音楽交流会)等

4.研究のすすめ方

- (1) 本校とのインターネットを活用した交流学習の研究
- (2) 他の地域の学校とのインターネットを活用した交流学習の研究
- (3) 教師のコンピュータリテラシーの育成の研究

(1) , (2) を研究の柱とし、授業実践を行う。また、インターネットを活用した交流学習の内容を充実させるために、(3) において教師のコンピュータやソフトウェアの基本操作や活用の方法についての研修を行う。

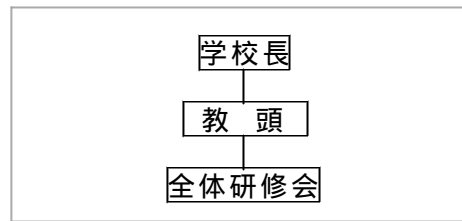
5.研究組織

全体研修会

研究推進のための原案を審議する。

研究主題や研究仮説に基づいて、具体的な内容を計画し実践する。

- (a) 他の地域とのインターネットを活用した交流学習について研究する。
- (b) 本校とのインターネットを活用した交流学習について研究する。
コンピュータ、ソフトウェアの基本操作や活用の方法についての研修を行う。



6.研究経過

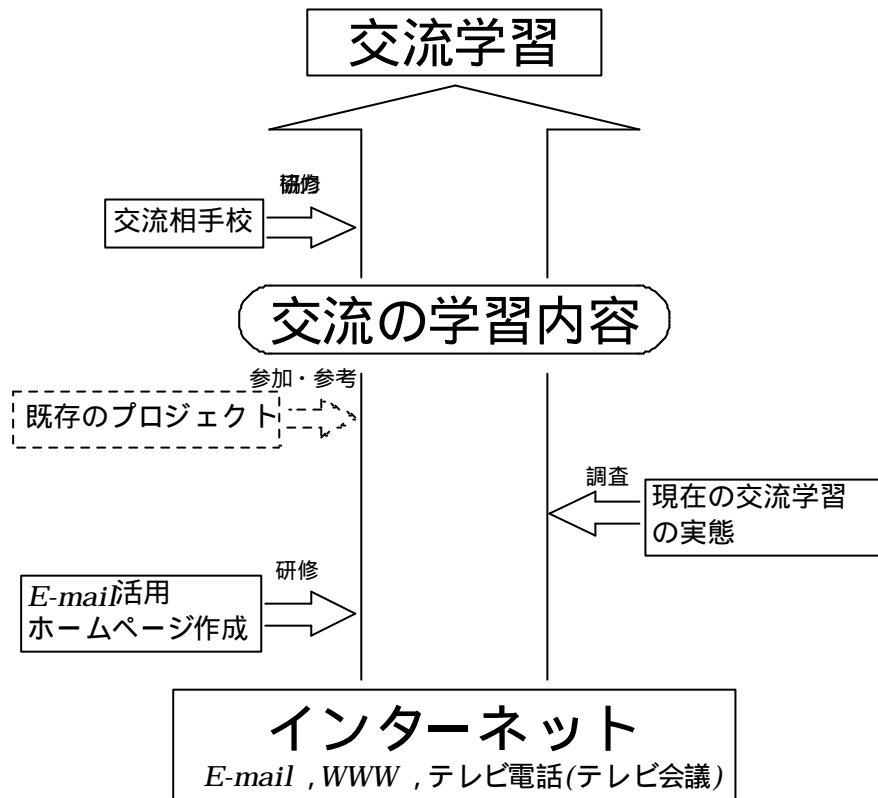
月 日	研究の内容	月 日	研究の内容
5月9日	全体研修 研究主題決定	11月14日	全体研修 中間発表会の内容について
5月23日	全体研修 交流学習実現までに	11月22日	全体研修 中間発表会までのスケジュール
6月13日	全体研修 インターネットの特徴を理解する	11月24日	総合学習中間発表会(西方中交流)
6月27日	全体研修 HP作成	12月12日	全体研修 本校との交流について
7月11日	全体研修 電子メール、PDFについて	12月19日	全体研修 本校との交流について
7月18日	全体研修 8月の研究について	12月22日	西方中との交流生徒集会
8月9日	全体研修 既存プロジェクト等について	1月23日	全体研修 本校との交流学習について
8月31日	全体研修 交流学習の内容について	2月9日	本校へ交流協力の依頼文書送付
9月19日	全体研修 交流学習の内容決定	2月23日	全体研修 最終発表会までのスケジュール
9月26日	全体研修 交流学習の方法について	2月27日	全体研修 最終発表会の内容確認
10月5日	全体研修 交流の依頼について	2月28日	総合学習最終発表会(西方中・本校交流)
10月13日	全体研修 西方中との交流決定	3月7日	全体研修 ビデオ会議、研究のまとめ
10月24日	全体研修 NetMeetingについて	3月21日	研究紀要完成

校内研修は原則として、毎月第2、第4火曜日開催。行事等の関係で第2、4週に実施できない場合は第3、5週に振り替えて行った。

II 研究の内容

1.他地域の学校とのインターネットを活用した交流学習の研究

六島分校では早くから学校サイトを立ち上げ、このサイトを窓口とし、電子メールによる交流に積極的に取り組んできた。しかし、各教科においてインターネットを活用した交流学習の実践には至っていない。そこで、インターネットを活用した交流学習を実践するために、以下のような流れで研究を進めていくこととした。



インターネットの特色を理解する
 E-mailの活用法，ホームページ作成などの研修を深める
 既存のプロジェクトについて知る
 交流学習の内容・方法を検討する
 交流校を探し，交流学習の具体的な計画を立てる
 交流学習を行う

(1) インターネットの特色を理解する

インターネットでは、電子メールを利用することで簡単にコミュニケーションがとれたり、Webページを作成し公開することで世界へ向けて情報発信が可能になるなど、今まで困難だったことが容易にできるようになった。反面、インターネットは様々な人たちが利用しており、危険性も持っている。教育活動の中でインターネットを利用していくためには、インターネットの表と裏の両面を知っておかなければならない。そこで、WWW，電子メール，テレビ電話等のビデオ会議について、その長所と短所についてまとめてみた。

World Wide Web

	長所	短所
一般	<p>いろいろな人の個性が出て面白い。 目的に応じてみることができる 必要な情報を探することができる 宣伝効果がある。 幅広い層へ自社の宣伝や商品の販売ができる 多様性…テレビなどのメディアだけだった時代には、海外の情報は、欧米中心に流れており、一方からの偏った報道になりがちだった。誰でも、簡単にホームページを開くことができることにより、両者の意見を誰でも簡単に入手することができ、客観的に判断する材料となる。</p> <p>新たなコミュニケーションの場として…現在、耳が不自由な人などのコミュニケーション手段として必需品となっている。また、家に閉じこもり、狭い世界で生きてきた障害者にとって、ホームページを通じての外との交流は新たな世界を広げている。専業主婦など核家族化の進む現代において、子育てなどについての祖父祖母から得ていた知識をホームページを通して、アドバイスをもらったりするなど新たなコミュニケーションの場としての役割を担っている。また、小さな子どもから老人まで、ホームページを通して、専門的な事についてでも、同じ立場で意見交換をすることができる。専門家など従来簡単に知り合うことができなかつた人とも知り合えるようになった。</p> <p>機会の平等…誰でも気軽に情報発信ができることから、誰にでもビジネスチャンスが広がっている。</p> <p>双方向性のコミュニケーション…ホームページの掲示板では、新聞などと違って、瞬時に、発信のみならずその反応が返ってくる。政治に関する各政党や新聞のホームページやでは、かなり質の高い政策論争が、政治家と一般市民の間で行われている。また、企業が商品開発のため、一般市民から広く意見を集め、市民の声を商品開発にいかしたりということも行われている。</p>	<p>つくる人で主観が違い正しい情報が分からないときがある。 参考文献や資料名がはっきり書かれていない場合がある 必要なホームページにたどり着くまで時間がかかったり、たどり着けなかったりすることがある 有害情報 匿名性…実名を公開しなくとも、発言できるので、それによる道徳性が欠如した発言がある。また、流れている情報が真実かどうかかわからない。情報教育の必要性 インターネットの関係の言葉が英語であるということ…英語を母国語としている民族以外にとっては、分かりにくくなってしまっている。また、海外の情報を収集する場合、アメリカが開発したシステムなので、どうしても英語がその共通語となってしまう。(その一方、アメリカやイギリスの言葉としての英語ではなくなってきたという現状もある。英語のアイデンティティの喪失) 情報をいかにに使いこなせるかどうかで、大きく変わるといわれる現代において、高齢者や障害者、また機械に弱い人間などの情報弱者と言われる人たちをつくらないようにするための取り組みが急務とされている。誰でも簡単に扱えるパソコンの開発などが進められている。また、視覚障害者のために、音声で再生できるソフトによるホームページ作成が行われ始めている。</p> <p>著作権の侵害…簡単に情報が得られ、その情報を加工しやすいことから、著作権の侵害が問題となっている。</p>
学校	<p>学校行事などの取り組みが映像や写真で記載されてわかりやすい。 施設や教室の風景がわかる。 学校の様子などが手に取るように分かり、大変参考になる。また、ホームページも作者の個性が出ていてすばらしい。 活動や考えを紹介して、意見を聞くことができる。 必要な情報をいつでも得ることができる 情報収集の手段…簡単に多様な情報が得られるようになった。</p> <p>他との交流の機会…他の意見を聞くことが難しい、小規模校においても、ホームページなどを通じて他との交流を図る機会ができることで解決できる。</p> <p>発信型の教育へ…コミュニケーション能力の中でも、人にものを伝える力の育成が叫ばれている現代において、ホームページ作成はその場を提供できる。</p> <p>生徒の作品への反応…自分の作品に対する反応は動機づけになる。</p> <p>地域や学校の格差…例えばいじめの問題など、学校などによって格差があると思われるものについても、インターネットを通じての意見交換により、意見を深めることができる。</p> <p>開かれた学校…総合学習において、民間の人たちの学校教育へ登用が言われているが、その時に、学校教育の内容の発信は必須である。開かれた学校とするための、発信の場となりうる。</p> <p>新たなコミュニケーション…話すことが苦手な生徒でも、チャットの機能を使って、討論などをすると、普段発言しないような生徒まで発言したり、それぞれの生徒の発言の回数が平均したという報告もある。</p> <p>通信教育(国内)…日本国内の大学、大学院で、イ</p>	<p>生徒のプライバシーをどこまで守れるか。 犯罪や商売などに利用される恐れがある。 見るのはいいが、作るのには相当な技術と手間がかかりそうだ。</p>

<p>インターネットの導入が進んでいる。チャットの機能、メーリングリストの利用により、教授との論文の指導や、レポートの提出などを行う。テレビ会議システムなどの導入も検討されている段階。通信制の大学院が、最近どんどん誕生しているが、それを可能にした要因のひとつにインターネットの出現があげられる。また、通信での大学卒業は困難とされていた原因の一つとして、情報交換の場がなく、孤独な戦いであったことがあげられるが、学生によるメーリングリストやホームページができ、活発な意見交換が行われており、情報交換や情報収集が可能になった。大学のみならず、通信教育を扱う企業も、ホームページやメーリングリストの機能を使い、新たなサービスを提供し始めている。</p> <p>通信教育(海外)・・・海外の大学に留学するとしたら、その費用は膨大なものになり、また、社会人は一度仕事を辞めなければならないなどの問題があったが、インターネットを通じて、海外の大学での単位取得が可能となっている。生涯学習が叫ばれている今日、社会人向けとして注目を浴びている。</p>	
--	--

E-Mail

	長所	短所
一般	<p>電話より本音で言える。 深夜でも大丈夫。 相手の時間帯の都合を考えなくていい。 あとから読み返せる。 世界各国の人たちとメールのやり取りが短時間でできる。 世界中の人たちとの交流によって知識が広がる。 簡単にメールを送受信し、知りたい情報が分かる。便利さはこの上ない。 情報が早く伝わり、また、必要な時に得ることができる。 幅広く情報の交換ができる。 多数の人の考え・信条を知ることができる。 電話と違い、相手が都合のいいときにメールを見ることができるので、気軽にメールを送ることができる。 海外との連絡においては、時差を気にする必要がない。 添付ファイルの形で、文書などを送ることができるので、ファックスと違い、受け取った文章にいろいろと付け足したりする事ができる。また、コストが安く、一度に多くの人にメールの送信が可能である。 メーリングリストなどによる意見交換も活発に行われている。メーリングリストにより、専門的な最新の知識を一般人が簡単に、いち早く得ることができる。</p>	<p>直接でないのできちんと連絡がついているか心配。 ウイルスの問題。 個人のメールを他人に見られるおそれがある。 顔が分からないのが少々危険な気もする。 金がかかること。 情報が漏れるおそれがある。 設備に費用がかかる。 操作が難しい。 確実に相手がメールを受け取って読んだかどうかの確認が困難。急用であれば、電話などで確認する必要がある。</p>
学校	<p>たくさんの情報が入手できる。 パソコンに親しみやすくなる。 学校間の交流が広がる。 多くの人と意見交換をすることにより考え方がわかる。 全国の学校の情報が瞬時に取り出せ、交流などができ、メールのやりとりが行え、メールでの相談なども可能。 機器を自分で操作する事により興味 関心がわく。 自分の考えを多くの人に知ってもらうことができる。 過疎地の小規模校においても、安いコストで、他との交流の機会を作ることができる。</p>	<p>メールばかりで会話が減る可能性があるのでは。 パソコン上の付き合いだけの関係で、生の会話が成立しない。 話すことがおっくうになり、パソコンに逃げる可能性がある。 相手がどんな人かわからず、また、その情報が正確かどうかわからない。 携帯電話等での中高生の利用にはモラルが必要。 大規模校においては、パソコンにいつでも生徒が気軽にさわれる環境を作るとは小規模校に比べて難しい。</p>

テレビ電話・ビデオ会議

	長所	短所
一般	<p>生きた生の会話が成立する。 どんな離れた場所においても会いたい人や話したい人と顔を見て話せる。 相手の表情などが分かり、臨場感がありよい。 離れた場所で多数の人が同一資料を介して話し合いができる。 表情が見え音声聞こえるので感情が伝わり効果的である。 遠隔地でも、簡単に会議をすることができ、出張費などの大幅な削減と、時間の有効利用ができる。 障害者・高齢者など・・・外への外出が困難な障害者にとっては、外との交流の場を作ってくれる。また、テレビ会議システムとインターネットを使えば、障害者が家に居ながらにして、今まで以上に多様な仕事ができるなどの可能性がある。 地方と都市の差・・・仕事の関係で、都市への集中が見られたが、マルチメディアを使えば、地方にいても、都市にいるのとあまり差のない仕事ができる。</p>	<p>費用がかかる。 技術者の問題。 設備に費用がかかる。 操作が難しい。 まだまだ、設備投資などに費用がかかるので、普及しておらず、気軽に使えない。</p>
学校	<p>授業・学級活動・生徒会活動等の交流や取り組みが同時進行できる。 視覚に訴えるのは抜群の効果があると思う。授業等で使用することが可能になれば、生徒の理解の助けになると思う。 小規模校等は、多数の人と交わることができ、集団としての活動が体験できる。</p>	<p>機械・設備の問題。 今のところあまり一般的ではないような気がする。</p>

(2) 既存のプロジェクト・各学校の取り組みについて知る

インターネットを活用した交流学習を行うとき、既存のプロジェクトに参加するののも一つの方法である。また、インターネットを活用した交流学習を既に実施している先進校の取り組みについて知ることによって、取り組む学習内容や方法について参考になると考えた。そこで、既存のプロジェクトや先進校の取り組みについて調べてみた。

インターネットを活用した交流学習・共同学習プロジェクト

「環境のための地球学習観測プログラム」

<http://www.hiroshima-u.ac.jp/japanese/fukuyama/globe/globe.html>

教師および科学者が相互に協力しながら、全世界の個々人の環境に関する意識の啓発、地球に関する科学的理解の増進、理数教育においてより高い水準へ到達するための援助となることを目的として、環境観測や情報交換を行う。学校の基礎とする国際的な環境教育のプログラム。

Eスクエア・プロジェクト AT&Tバーチャル・クラスルーム

<http://att.birtualclassroom.org/VC99-J/index.html>

「AT&Tバーチャル・クラスルーム」というサイトを通して、海外校との共同研究を行う。学校単位で参加し、異なった国の3校が一組となつて、チームを編成し活動する。各チームにはコーディネーターがつき、グループがスムーズに活動できるようアドバイスを行ってくれる。

Eスクエア・プロジェクトの中に、神奈川大学付属中高等学校の実践事例が詳しく紹介されている。研究テーマとしては、「各国の年中行事（伝統行事）」「未来の色世界」（生活の道具として記号論的に用いられた色、伝統的な色、自然にみられる色と人類との関わりの中から、それぞれの国が主張する色を発表し、また共通する色を考察することから、それぞれの国の生徒たちが他国の生活や考え方を吸収し、尊重することを目標とする）などの取り組みが紹介されている。

AT&Tの利点として、コーディネーターがつくので、サポート体制がとられており、活動しやすいことがあげられる。しかし、今年度は、AT&Tは活動を休止している。ただし、AT&Tのサイトには、いろいろなプロジェクトが紹介されているので、そちらは参考にできる。

環境問題や異文化理解、地理や科学に関する調査などについて共同研究を世界中に呼びかけたり、募集しているページとしては、IECCプロジェクトなどがある。

日本人学校との交流(千葉教育センター)

<http://www.ice.or.jp/jps/>

世界各地の教育素材を生かした日本人学校との共同実践研究。

テーマ例「スクールニュース」プロジェクト・・・世界中の日本人学校とスクールニュースを中心とした交流を通して、様々な地域の文化や生活の違いや共通点について話し合い、人間や異文化の理解を目指す。

小規模校ネットワーク

<http://www.s-school.com>

インターネット上でヴァーチャルな集合学習を小規模校同士で行う。(小学校のみ)

インターネットを活用した交流学習・共同学習に取り組んでいる学校

茨城県立土浦市土浦第二小学校「交流(姉妹校)コーナー」

<http://www.educ.tsuchiura.ibaraki.jp/nisho/data/koryu.htm>

インターネットを通して交流ができる学校募集。

広島県広島市立長束小学校「全国子ども千羽鶴大作戦平和集会2000」

<http://www.hbs.ne.jp/home/ohata/nagatsuka/2000kid'sPeaceForum.htm>

平和学習についてのホームページ。鶴づくり参加や意見交換ができる。

島根県三隅町立井野中学校

<http://fish.miracle.ne.jp/inochu/>

平成 13年 3月をもって閉校する学校の取り組みや生徒の活動や交流を通して閉校に対する意識の高揚をはかり、分校の閉校行事についての一助とする。

鹿児島県大島郡宇検村立名柄小・中学校

<http://syampse.ne.jp/nagara/>

児童数11名、生徒数8名の学校。今年度スクールホームページコンテスト入賞校。

岡山県笠岡市立真鍋中学校

<http://www.city.kasaoka.okayama.jp/manabehp/cyu/manabe01.htm>

全校生徒13名の中学校。今年度スクールホームページコンテスト入賞校。

その他参考となるサイト

「同一河川流域内学校交流実践企画・交流学习実践マニュアル」(Eスクエア・プロジェクト)

http://www.cec.or.jp/00e2/books/kyoudou/doutukasen/2/02_01.html

交流学习の実践研究を通して開発されたノウハウ集。交流学习を実践する際の参考になる。

あいらう`サイエンする「いきものわくわくうおっちゃんぐ」

<http://www2u.biglobe.ne.jp/inasan/>

いろいろな科学等の実験について紹介。参加もできる。

(3) インターネットを活用した交流学习の内容の検討

インターネットの特色を理解した上で、既存プロジェクトや先進校の取り組みを参考にしながら交流学习の内容や方法について全員が提案を行い、全体で検討した。

交流学习についての各提案内容

総合学習と併用し、途中経過や最終発表の場とする< 淵上養護教諭提案 >

実施方法：交流校を見つけて 対象学年：全学年

内容：今年度、総合学習で「ふるさと」を題材にしている学校は多いと思う。そこで、他のふるさととの比較(良さや違い)をしながら、六島の良さを深く知ってもらいたいと思う。また、交流学校に発表することで、生徒の意欲も出ると思うし、いろいろな人の課題の進め方を知って自分が総合学習を進める手だてにもなると思う。また、教員も他校の総合学習の取り組みを知ることによって勉強になると思う。

教養などを深める場とする< 淵上養護教諭提案 >

実施方法：交流校を見つけて 対象学年：全学年

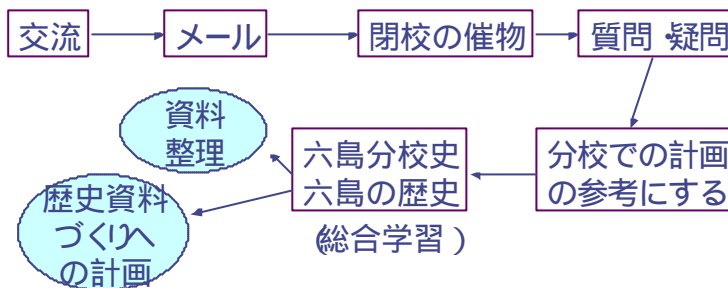
内容：教養などを深めるためには、本を読んだりテレビを見たりいろいろあるその中で人から聞いて知ること多い。そこで、「本の紹介」や「知っておくと便利な知恵」「新聞記事」などの紹介や意見を述べるなどの情報交換をしていき、最終的に「教養特集」みたいなホームページやあるいは冊子ができればと思う。常に教養を深める習慣を身につけている人とつけていない人では、年齢を重ねるにつれて差が出てくると思う。そういう意味でも日々の生活の中でもアンテナを作るきっかけづくりができればと思う。

閉校を迎える学校との交流< 俵教諭提案 >

実施方法：島根県三隅町立井野中学校との交流 対象学年：全学年

内容：来年度の閉校行事を開催するときの参考として、取り組みの内容や様子を見たり聞いたりして参考にしたい。よりよい分校の閉校行事を行うことができたらよいのではと考えた。授業はできないと思うが、メールを交換してお互いの気持ちや考えを交換でき

たらと思う。生徒は6人で環境がよく似ている。(学校の環境)



閉校を迎える学校との交流 < 前田教諭提案 >

実施方法：島根県三隅町立井野中学校との交流 対象学年：全学年

内容：平成 13 年をもって閉校する学校の取り組みや活動の交流を通して、六島分校の休校に対する意識の高揚を図り、来年度の休校行事に向けて準備計画を行う。

「総合的な学習の時間」における交流学習 < 川下教諭提案 >

実施方法：新規プロジェクト立ち上げ 対象学年：全学年

目的：自分たちの住む地域の昆虫や、植物、水質調査を行うことにより、地域に目を向けさせる。また、その結果を交換し、他の地域と比較検討し、これからどうしていかなければならないか、今、自分たちにできることは何かなどについて意見交換を行い、どういった未来にしたいかを考えさせ、環境問題などについて考えさせる機会とする。

内容：地域の昆虫(アリ, ゴキブリなど), 魚, 植物の画像交換(大きさなど簡単なコメントを加えて)。できれば、昔の様子を調べて現在と比べてみる。
水質調査・・・技術的な問題があると思うので、可能かどうか。globe projectへの参加も考えられる。

方法：交流校募集・・・分校サイトに交流校募集のページを載せると同時に、いろいろなサイトへの書き込み、直接相手校にメールを出す(参加校自己紹介の掲示)
調査及び、調査内容のサイトへの掲載
意見交換・・・メーリングリスト, 掲示板, E-Mailなど
最終発表・・・どういった21世紀にしたいかを、絵や文章によって表現

「総合学習」発表交流会 < 田中教諭提案 >

実施方法：交流校を見つけて 対象学年：全学年

目的：「総合学習」での学習の成果を発表し合うことで、多くの生徒の感想や意見を聞くことができ、さらに自分の考えを深められる。
学習の成果を多くの人に発表することで、それらの人から反応を得ることができ、学習の成就感を味わえる。

内容：交流校と「総合的な学習」の学習成果の発表会(中間発表, 最終発表)を行う。
ビデオテープ, テレビ電話, ホームページによって
お互いの発表に対する感想や意見を送る。電子メール, ホームページ, テレビ電話によって

e- 句会 < 田中教諭提案 >

実施方法：新規プロジェクト立ち上げ 対象学年：全学年

内容：「今月のお題」を設定し、俳句を募集する。送られてきた俳句をホームページに掲載する。その際作者名はふせておく。掲載された作品の中で、一番良いと思う作品を選んで投票してもらおう。月ごとに優秀作品とその作者名を紹介する。

ねらい：このプロジェクトに参加するには俳句を作り応募すればよい。また、自分の作品の評価が投票数で確認できるという楽しみがあり、プロジェクトへの参加が継続する可能性がある。

このプロジェクトでは参加にあたっての打ち合わせ等が必要ないため、時間的な制約がなく気軽に参加することができる。:

交流学习の内容

それぞれの提案を検討し、全体としては「総合学習」の発表会を交流学习として行うことにした。

(i) 生徒同士の交流

学校紹介，自己紹介
発表会の打ち合わせ

(ii) 中間発表会

テーマ学習「I live in 六島」の中間発表
酒造会社，見学・職場体験活動の発表の発表
こちらの発表を聞いてもらい，感想や意見を述べてもらう。

自己紹介〈事前・発表時〉

生徒の学習成果の発表

- ・テーマ設定の理由
- ・研究内容と方法
- ・研究成果
- ・今後の課題

それぞれの発表に対する意見交換

- ・よかったところ，今後参考にしたいところ
- ・工夫した方がよいと思われるところ
- ・疑問点や発表そのものの内容について

(iii) 最終発表会

テーマ学習「I live in 六島」の最終発表
中間発表受けて，活動計画を見直し，さらに追究していった学習の成果について発表する。

生徒の学習成果の発表

- ・中間発表後の研究の内容と方法
- ・研究成果
- ・今後の課題

それぞれの発表に対する意見交換

- ・よかったところ
- ・工夫した方がよいと思われるところ
- ・疑問点や発表そのものの内容について

(4) インターネットを活用した交流学习の方法の検討

インターネットを利用した「総合学習」の交流発表会を行うための方法について検討した。

交流学习とインターネットの機能・サービス

「総合学習」交流発表会において次のようなインターネットの機能・サービスの利用が考えられる。

- (a) E-Mail
- (b) ホームページ
- (c) チャット
- (d) 電子掲示板
- (e) テレビ電話

(f) NetMeetingなどのツールを利用したのオーディオ・ビデオ会議

	長所	短所	現在の環境で	活用場面
E-mail	<ul style="list-style-type: none"> 文章の他に様々な形式のファイルを送ることができ、情報量が多い 好きな時間に活動でき、時間的な制約があまりない 	<ul style="list-style-type: none"> リアルタイムでの意見交換には不適 		<ul style="list-style-type: none"> 事前、事後の活動（打ち合わせ、自己紹介、発表後の意見交換等）
ホームページ	<ul style="list-style-type: none"> 画像（写真）、音声、ビデオなど様々な情報を利用できる 	<ul style="list-style-type: none"> 意見交換には不適 作成に時間がかかる 	閲覧 公開	<ul style="list-style-type: none"> 発表内容の詳細な紹介
チャット	<ul style="list-style-type: none"> リアルタイムでの意見交換が可能 	<ul style="list-style-type: none"> キーボード入力による文字のやりとりのため、タイムラグが生じる 活動時間を設定する必要がある 		<ul style="list-style-type: none"> 発表後の意見交換
電子掲示板	<ul style="list-style-type: none"> 大勢による意見交換が可能 好きな時間に活動でき、時間的な制約があまりない 	<ul style="list-style-type: none"> リアルタイムでの意見交換には不適 		<ul style="list-style-type: none"> 事前、事後の活動
テレビ電話	<ul style="list-style-type: none"> リアルタイムでの意見交換などが可能 NetMeetingと比較し、画像が鮮明 	<ul style="list-style-type: none"> お互いにテレビ電話が必要 	×	<ul style="list-style-type: none"> 発表 意見交換
NetMeeting	<ul style="list-style-type: none"> リアルタイムでの意見交換が可能 比較的簡単に利用できる 	<ul style="list-style-type: none"> 解像度を低く設定する必要がある 映像が滑らかでない 	音声 ビデオ ^{*1} ×	<ul style="list-style-type: none"> 発表 意見交換

インターネットを利用したビデオ会議システムについて

(a) NetMeetingなどを利用したビデオ会議システムの場合、テレビ電話を利用するよりも通信料金が割安である。

(b) インターネット接続に電話回線を利用する場合、ISDN回線を利用しても64 kbpsと低速なため、テレビ電話に比べ画質が粗く、映像が滑らかでない。

(c) インターネット接続に高速な専用線を用いた場合、テレビ電話よりも鮮明な画像、滑らか

*1ビデオキャプチャーボード+ビデオカメラまたはUSB接続のPCカメラ等が必要。

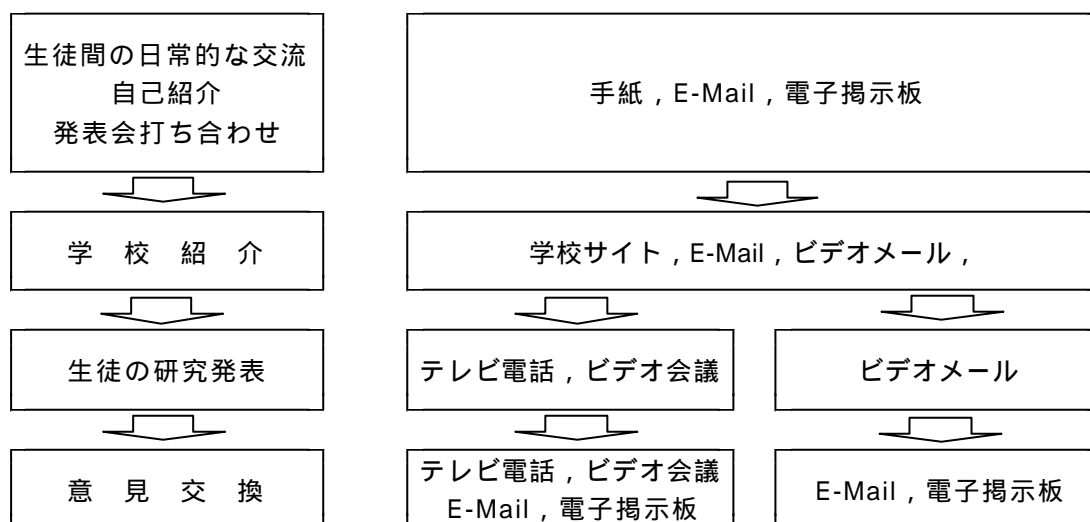
な映像が得られる。

注意点

インターネットに接続するコンピュータには他のコンピュータのものと重複しない固有のIPアドレスを持っている。プロバイダを利用してダイヤルアップでインターネットに接続する場合は、接続のたびにIPアドレスが割り当てられている。1つの回線をダイヤルアップルーターなどを使って、LAN上の複数のコンピュータでインターネットに接続する場合、LAN上のコンピュータに割り当てられているプライベートIPアドレスをグローバルIPアドレスに変換（NAT機能）している。ビデオ通話を行う場合、通話相手を特定するため、通話するコンピュータはグローバルIPアドレスを持っていないなければならないが、ダイヤルアップルーターによる接続では、グローバルIPアドレスまでは特定できるが、そこから先のプライベートアドレスまでは特定できない。そのため、ダイヤルアップルーターなどによるインターネット接続ではビデオ通話が利用できない。

「総合学習」交流発表会の方法

交流相手校との生徒同士の日常的な交流、生徒の自己紹介、発表会の打ち合わせにはE-Mailやビデオメールを用いることができる。生徒の研究発表はテレビ電話やビデオ会議によりリアルタイムで行うことが理想的である。それらが利用できない場合でも、プレゼンテーションの仕方の学習という観点からビデオメールによって行う方が好ましいと考えられる。発表についての意見交換でも、テレビ電話やビデオ会議によりリアルタイムで行い、その場で回答できなかった場合などは、発表会後にE-Mailや電子掲示板を利用することが理想的である。



交流相手校について

どのような学校と交流学习を行うか、以下の4点について検討した。

(a) 研究内容から

郷土を大テーマとして学習しているので、できれば同じように郷土や地域をテーマとして学習している学校と交流学习を行うのが望ましい。郷土や地域以外をテーマとしている学校であっても、発表方法や学習の進め方等の学習にはなる。

(b) 交流相手校の規模から

交流学习に積極的に取り組んでいる学校は、大規模校より小規模校の方が多いと思われる。また、小規模校であれば、全員（全グループ）が発表する時間を確保することもできると思われる。大規模校では、全員（全グループ）が発表することは難しく、数人（数グループ）に限定してもらう必要がある。交流相手校数について、テレビ電話やビデオ会議によってリアルタイムで発表会を行う場合は複数校と行うことは時間的な問題から難しい。ビデオメールの

交換等による交流であれば複数校と行うことができる。

(c) 交流相手校のコンピュータ・インターネット接続環境から

交流校を募集する前に交流方法を決定し、環境の整った学校を探す方が望ましいが、募集後、交流学习の内容を計画する中で、お互いの環境を考えて、交流方法を決定する。ただし、相手校がインターネットに接続できる環境であることは必須条件である。

(d) 発表会の時期から

「総合学習」の年間指導計画からみて、中間発表会は11月下旬から12月、最終発表会は2月になるので、その時期に発表会を行う学校を探す。

交流相手校を探す手段について

交流相手を探す手段について検討し、次の4つの方法で行うこととした。

- (a) 学校サイトに募集案内を掲載する
- (b) サイトを公開している学校の中から郷土・地域をテーマに総合学習に取り組んでいる学校へE-Mailで直接申し込む
- (c) 職員の知人を通して直接申し込む
- (d) 他地域の学校で見つからない場合、本校と行う

交流依頼のメール

突然のメールで失礼いたします。

私は長崎県小値賀町立小値賀中学校六島分校の と申します。

私どもの学校では総合学習の交流発表会を行っていただける学校を探しております。貴校のホームページを拝見しましたところ、すばらしい教育活動を行っていらっしゃるごうかがえ、ご協力いただけないかと思いメールを差し上げた次第です。

六島分校は長崎県の離島の生徒数3名(2年生1名,3年生2名)の学校です。今年度総合学習に取り組んでいるのですが、生徒数が少ないため、多くの子どもたちと交流できないかと考え、インターネットを通じた交流発表会を計画しております。そこで、交流発表会を行っていただける学校(クラス)を探しているのですが、そちらの学校(クラス)と交流をお願いできないでしょうか。

交流発表会についての詳しい内容は以下の通りです。
ご協力いただければ幸いです。よろしく申し上げます。

1.内容

- ・総合学習の中間発表会・最終発表会
- ・六島分校の学習発表,発表についての意見交換
(・交流校の学習発表,発表についての意見交換)

六島分校では「I live in 六島～だからこそもっと知りたい～」をテーマに郷土学習を行っています。

(1) 中間発表会<11月中旬～12月>

- 自己紹介(事前,発表時)
- 生徒の学習発表(六島分校のみ,または両校とも)
- 意見交換(質疑応答,発表についての意見や感想)

(2) 最終発表会<2月～3月>

- 生徒の学習発表
- 意見交換(質疑応答,発表についての意見や感想)

2.方法

インターネットを活用した交流学习として、E-mail、ホームページ、チャット、テレビ電話、NetMeetingなどの利用を考えていますが、施設・設備の問題もあると思いますので、話し合いの後決定したいと思っております。

 長崎県北松浦郡小値賀町六島郷
 小値賀町立小値賀中学校六島分校
<http://www2.ocn.ne.jp/mushima/>

@**

(5) 栃木県西方中学校との交流学习

交流校募集の案内を学校サイトに掲載してすぐに、栃木県の西方中学校から交流学习の申し出があった。

栃木県西方中学校からの交流学习の申し出のE-Mail

はじめまして。小値賀中学校六島分校さん！
 こちら栃木県上都賀郡西方町立西方中学校の鈴木と申します。
 小値賀本島のことは、国語の教科書でちょっとだけ知っていましたが、さらに、そのそばにもっと小さな島があって、そこに元気な生徒さんたちがいるとは知りませんでした。
 突然のお便りで申し訳ありません。
 実は交流学习(?)の申し込みなのですが、お願いできますでしょうか？
 本校もホームページを開設しておりますので、ご覧いただければわかると思いますが、今度国語の授業で「わかりやすく伝え合う」という授業の実践を考えています。クラスを班別に分け、各班が県内と県外の学校と交流をします。県内の中学校と県外の中学校では、当然相手の持っている情報量が異なりますから、発信する際にも、取材や叙述において違いが出てきます。国語で作文を書く場合にも、読み手を意識して文章を書くことが大切です。また、交流の手段についても、Eメールにこだわらずにできればと考えています。そればどんな交流をしたいのか、何のための交流かによって、その時その時、手段が変わってくると思うからです。肉筆の手紙の温かさやビデオレターや実物の入った小包、こういったものが持つ良さはたとえコンピュータによる交流が可能になっても大切なものだと思います。目的意識をもって交流をする。目的によって手段を選択できる。このような力を生徒につけることが大切ではないでしょうか。そのような考えのもとに、現在交流校を探しています。北海道と岩手県の中学校さんが交流を引き受けてくださいました。インターネットでホームページを開設している学校を探しますと、小値賀中学校六島分校さんが目に留まりました。島の生活や島の中学校さんの学校生活とはどのようなものか？本校の生徒にも、今まで見たこともない学校だと思います。どうせ交流をするなら、そのような自分たちと異なる状況で生活している生徒さんと思い、メールをお送りする次第です。
 本校でもホームページを数年前に開設した後、なかなか更新できずにいます。
 今回の交流学习を通して、生徒の手で西方中学校のホームページのパワーアップを図っていきたいと考えています。交流の第一段として、お互いの学校や地域を紹介し合うというのはいかがでしょうか？紹介文などを読んでいただき、わかりにくいところやもっと知りたいことなどの要望を示唆していただくことで、ホームページの内容を検討していきたいと考えています。
 その後、本校の総合的な学習で取り上げていることについても、六島郷の生活と比べて意見交換ができればと思っています。本校では、「住みよい町づくり」という大テーマのもとで、環境や福祉や文化などの小テーマに分かれて、ボランティア活動やアンケート調査などを実施して、

自分たちなりの理想の町づくりを考えています。六島分校さんのご負担にならなければ、そういうことについての生徒さんの意見や島の方のお考えを聞かせていただければと思います。こちら3年生は87人と小規模の学校です。そのうちのグループを交流相手にしてもかまいませんし、もっと多くのグループを交流相手にしてもかまいません。生徒さんの負担のかからない形で、できたらお願いしたいのですが。

また、コンピュータをはじめ、いろいろな視聴覚機器を活用した学習が今後展開されることが増えると思います。総合的な学習など、その最たるものかもしれません。しかし、そのような機器を使用するにしても、国語の力が非常に大切になってくると思います。今回の交流学习を通して、Eメールや手紙やビデオなどの手段を用いることで、それぞれの手段の良さや、それを用いる際に注意すべきことなどを考えさせ、ひいては国語、言語の力を高め、よりよいコミュニケーションのできる生徒を育てたいと考えています。

と、こちらの考えていることばかり書いてしまいましたが、六島分校の教頭先生はじめ6人の先生方(特に国語の先生)、いかがでしょうか？

もし、興味がおありになって、相手をしてくださるのでしたら、ご連絡を下さい。お待ちしております。

突然のお手紙、本当に申し訳ありません。また、文整わず、長時間お手数をおかけして申し訳ありませんでした。

この申し出を受け検討した結果、次の3つの内容で交流学习を行うことにした。また、これらの学習は「総合学習」の時間に取り組むことにした。

国語科での「わかりやすく伝え合う」

E-Mailに限らず、ビデオレターや手紙などで交流する。

総合的な学習「住みよい街づくり」

お互いの地域について比較しながら意見交換をする。

「総合学習」交流発表会

テレビ電話を使って「総合学習」の研究発表を行う。

「総合学習」中間発表会

(a) 「総合学習」活動案

平成12年11月24日(金) 9:45～10:35, 第2学年 男子1名, 第3学年女子2名

交流校 西方中学校第3学年 87名

1. テーマ 「I live in六島 ～だからこそもっと知りたい～」

2. テーマ設定の理由

本校は生徒が3名の小規模校である。少人数であるが故に、教科の学習はもちろん、行事などでも全員が主体となって取り組むので、体験から学ぶことは多い。しかし、普段から多様な意見にふれる機会が少ないこともあって、創意工夫する力が乏しい。また、生徒たちが生活している六島は、ほぼ全家庭、祖父母と同居しており、地域の人との触れ合いの機会も多く、地域全体で子どもたちを育てていこうとする環境がある。そのため、生徒たちは六島の歴史や風習について普段から耳にする機会も多い。しかし、その反面、すべての子どもが、中学校を卒業すると島を離れていくため、少子・高齢化で地域の活気がうすれ、伝統や風習など失われつつあるという現実もある。

コンピューターの活用においては、生徒たちはコンピューターを使うことに慣れており、基本的操作は十分身につけてきている。他の地域の人たちとの交流にも積極的に取り組んでおり、これまでも、電子メールを通していろいろな人たちとの交流を実現してきている。

核家族化や都市への集中が進み、地方においては過疎化が深刻な問題となっている現在、郷土のよき伝統や風習が失われつつある。そういった中で、郷土について見つめ直し、郷土の現状を正しく認識することは、よりよい未来を創造していこうという力につながっていくものと思われる。今回のテーマ学習を通して、お年寄りをはじめとする地域の人たちからあらためてお話をうかがったりすることによって、自分たちの地域の良さを再認識させ、郷土愛を育成することは大切なことである。

本テーマ学習では、生活体験や社会体験を積み上げてきた身近な地域を題材として、生徒一人ひとりが主体的に課題追究を図る学習を展開させていきたい。生徒の課題設定においては、郷土についての興味・関心が高まるようオリエンテーションに工夫をし、ウェービング法を用いて、子どもたちの興味や関心に沿って、ともに学習課題づくりに取り組んでいきたい。課題追究の場面では、地域の方や歴史資料館等の施設での聞き取りなど、校外での調査活動を積極的に行わせていきたい。学習のまとめとして、中間発表会、最終発表会を行い、課題追究で明らかになったことや考えたことなど学習の成果について発表する。なお、中間発表会はテレビ電話を用いて他校と交流学習を行い、多様な意見にふれることで、自分の考えを深めさせたり、学習内容について見つめ直す機会としたい。最終発表会においても、テレビ電話を用いて他校と交流学習を行い、最終的な学習成果の発表を行うとともに、「住みよい街づくり」というテーマのシンポジウムを行うことで、幅広い見方や考え方をもち、より深く郷土を見つめさせたい。また、学習のまとめにコンピュータを活用することで、多様なメディアを取り入れ、個性豊かな表現力を養いたい。さらに、インターネットの活用によって、学習の成果を情報として発信し、多くの人からの反応を得ることで、生徒に達成感や成就感を味わわせたい。

3.指導目標

郷土を見つめたり、郷土から見上げたりすることを通じて、郷土の現状を正しく認識し、現在そして未来の生活をよりよく創造していこうとする心を身につける。

地域を学習材として郷土の姿を追究する中で、自ら課題を見つけ、自分の計画に従って追究し、自分なりの解決を図っていく。

4.指導計画

テーマ I live in 六島 ~だからこそもっと知りたい~ <24時間>

- | | | |
|--------------|-------|------|
| (1) 個人テーマの設定 | ————— | 2時間 |
| (2) テーマの追究 | ————— | 10時間 |
| (3) 中間発表会 | ————— | 1時間 |
| (4) テーマの追究 | ————— | 8時間 |
| (5) 最終発表会 | ————— | 1時間 |
| (6) 学習成果の発信 | ————— | 4時間 |
| (7) 学習の振り返り | ————— | 1時間 |

5.本時

(1) 題材

「総合学習」中間発表 西方中学校との交流発表会

(2) 目標

学習の成果に対する意見を聞き、学習の振り返りを行うことにより、幅広い視野を身につけることができる。

これまでの学習から、明らかになったことや考えたことを発表し交流しあう中で、学習の成果や方法を学び合い新たな課題を生み出すことができる。

(3) 事前の活動

10/24 ~ E-mailによる交流

- 11/10 テレビ電話による交流 自己紹介，メールによる質問の回答等。
 11/14 六島分校ホームページに西方中との交流のための掲示板を設置。

(4) 展開

段階	学習活動	形態	教師の支援	機器
導入 (5分)	1.活動のめあてと学習の内容を確認する 2.西方中みなさんにあいさつする	一斉 一斉	1.お互い自由に意見が出せるような明るい雰囲気をつくる。 2-1.生徒の進行で進めていく。 2-2.西方中みなさんに聞いてもらいたい点，学習の方法についてアドバイスしてほしいことを伝えさせる。	テレビ電話 テレビ
展開 (35分)	3.各自発表を行う (発表順) (1)正輝 (2)明日香 (3)香 4.内容についての質疑応答，学習の成果や方法について感想やアドバイスを聞く	個人 一斉	3.学習の成果だけでなく，工夫や苦労した点なども交え，自分の言葉で発表するよう助言する。 4-1.事前に発表資料に目を通してもらっておく。特に学習の方法について，自分たちの活動の中からのアドバイスをお願いする。 4-2.参考になる意見等をメモしておくよう助言する。	テレビ電話 テレビ スクリーン プロジェクター コンピュータ パワーポイント
まとめ (10分)	5.今後の取り組みについて参考になったことを発表する 6.「総合的な学習の時間」の学習を通して，地域に対してどのような思いを抱くようになったか意見交換を行う 7.西方中みなさんにお礼のあいさつをする 7.本時のまとめ	個人 一斉 一斉	5.西方中みなさんのアドバイスを聞いて，参考になったこと，今後の取り組みについて発表させる。 6-1.西方中のパネラー数名と六島分校3名で行う。 6-2.時間になったら，掲示板で継続していくよう助言する。 7.今後も交流を継続していくことを伝えるよう助言する。 7.西方中みなさんの感想やアドバイスを今後の学習の参考にすよう助言する。	テレビ電話

(5) 使用機器について

テレビ電話^{*1}

テレビ電話・・・SONY PCS-1500 (ITU-T勧告H.320とH.323に準拠)

ISDN回線を用い、音声・映像の通信ができる。今回の交流学习では、鮮明でより滑らかな映像を得るために、ISDN回線のBチャンネルを2回線(128kbps)使い行う。

電話料金

KDDI 001市外電話を利用。県外通話100 km~ 69円 / 3分

50分通話した場合 69円×50分 / 3分×2回線 = 2,300円

シャベリッチ(NTTコミュニケーションズ)やその他の割引サービスは、申し込みや通話先の番号登録が必要になるが、001市外電話は登録が不要である。

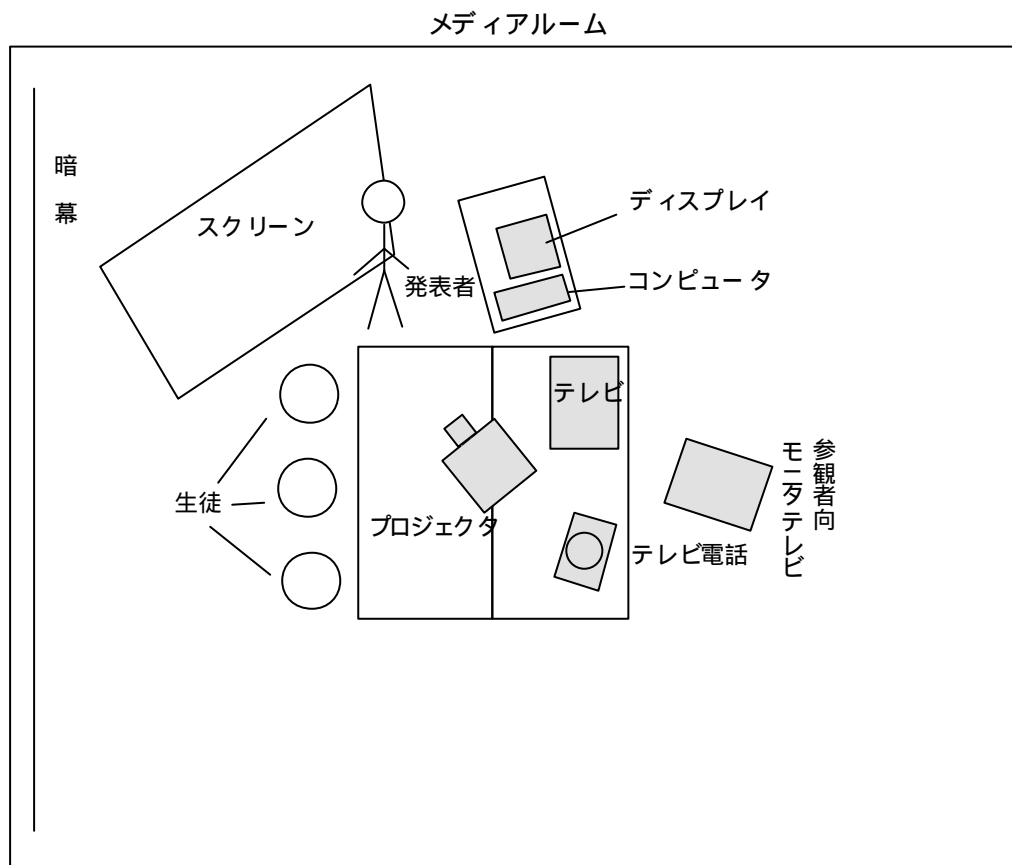
コンピュータ, 使用ソフトウェア

・コンピュータ・・・NEC PC9821 V200(MMX Pentium200MHz)

・ソフトウェア・・・Microsoft PowerPoint2000

プレゼンテーション用のスライドは生徒自身で作成(オーディオ, ビデオファイルは教師で準備)。

(6) 教室内配置について



(b) 事前活動

交流学习の最初の段階で、西方中学校より、自己紹介や「総合的な学習の時間」に調査活動を行っている内容を壁新聞にまとめたものが送られてきた。こちらの生徒も自己紹介や学校紹介をE-Mailで行った。そして接続テストをかねて、テレビ電話による自己紹介やそれまでに送

*1「先進的教育用ネットワークモデル地域指定事業」より借用

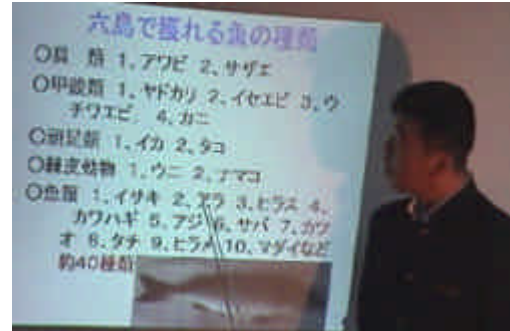
り合った学校紹介や学習内容についての質問の回答を行った。初めての対面で、生徒同士の会話はなかなか進まなかった。また、六島分校の生徒の発案により、学校サイトに交流のための電子掲示板“ニッシー・ムッシー仲良しひろば”を設置した。ここでは生徒が自由にメッセージを書き込めるようにし、生徒同士が友だち感覚で会話をしたり、発表会へ向けての打ち合わせなどを行った。この電子掲示板の設置により、生徒同士の交流も深まっていった。

発表会に向けて、他校の大勢の生徒の前で発表するという緊張感もあり、六島分校の生徒たちは、昼休みや放課後の時間にプレゼンテーションのスライド作成や発表の練習に自主的に熱心に取り組んだ。

(c) 発表会

生徒の発表は、テレビ電話の向こうにいる生徒に対して問いかけを行うなど堂々とした態度で発表ができた。発表後の質疑応答は、質問されてもその場での確かな回答をすることができなかった。しかし、すぐに回答できないものについて、「あとで調べてメールで回答します」と答えることはできていた。

後半の地域学習を通しての「地域に対する思い」についてのパネルディスカッションでは、このような大勢での意見交換の経験に乏しいせいか、相手の考えに対して自分の考えを述べるということができなかった。



(d) 事後活動

発表会后、電子掲示板上で発表会の感想などを書き込んだりしていた。発表会で述べられなかったことがここで少しは補えたようである。また、発表会での質問についての回答は、調査する時間が十分確保できなかったため、そのままになったものもあり、すべての質問に答えられなかった。

(e) 研究協議・参観者の感想から

発表会には町の教育長、町議会議員、町内の小・中学校の先生方に発表会を参観していただいた。

参観者の感想

授業について

- ・遠いので音声に時間差があるので、ゆっくり話すように指導した方がよい。
- ・動機から 調査 考察 今後の研究の流れはよいと思う。
- ・進行や研究発表の音量の間の取り方など良かったです。
- ・まとめ方も色使いや音楽も取り入れ、聞いている方もとても楽しかったです。
- ・見えないところでの先生方の支援や御指導（授業までの）すばらしいです。
- ・メールのやりとりや研究発表の中でのコンピューター操作など落ち着いて手際よくできていました。
- ・コンピューターも十分活用して、本当に身につけているんだなと思いました。
- ・発表質問など良く準備されていたと思う。すごい。
- ・事前の準備が大変よくできていたと思う。
- ・子どもたちのプレゼンテーションの資料づくりには、工夫の跡が見える。
- ・機器の使用については専門性もあり、ハプニングに対応できる体制をどう作っていくかも課題だろう。機器で言えば、もう少し簡単に扱えるようになればと思う。

生徒の様子・反応

- ・堂々と発表していた。
- ・漁業についての調査から考察までしていたので良かった。

- ・椿油についての調査をよく調べていた。
- ・堂々と発表し、生き生きと活動していました。
- ・西方中学校の質問にさっと対応していて驚きました。「調べて掲示板へ・・・」など。
- ・文化祭の発表でも3人が堂々としていたのには、きっといろんなことに挑戦しての自信があるからだと思います。
- ・授業中前後の光景で相互の中学生が協力的であることに気づいた。これは、これまでの2校間の交流がとても上手くいっているからではないか。
- ・発表中に方言や唄なども交え、六島の独自性も出せていた。
- ・緊張していたようだが、全体的には落ち着いていて良かった。

テレビ電話による遠隔地との交流学习について

- ・世界は狭いという感じである
- ・自分たちの調査したことを身近な人ではなく、遠くの人に説明し、聞いてもらえる意見交換である。
- ・映像を見ながら、相手校の反応などが分かり、確認しながら進められよかったです。まるで、同じ場所にいるような感じで授業が進みました。他地区や大勢の前でも自分の意見や研究発表が堂々とでき、うらやましい限りです。お金のことを考えなければしょっちゅうやりたいところですね。まだ、全国でも数少ない学習に取り組み、取りかかりが大変だったと思いました。まだ、よそがやっていない先駆けた学習をしていることで生徒も自信をつけているように感じました。
- ・とても便利である（テレビ電話）
- ・交流の後半になって、西方中の司会者とのやりとりが上手くいったので、スムーズに感じた。
- ・かなりエキサイティング。今後の展開に大きな期待。海に囲まれた小値賀にとって、このような取り組みは大きな教育の可能性を有すると思う。

総合的な学習の時間の取り組みについて

- ・本校では各事業所で職業体験を終えたところです。六島の漁業・椿油・大唄とても興味がありました。祖父母や地域の方に尋ねたりする中に、また尊敬の気持ちや優しさが増しているような気がします。
- ・全24時間と系統的に取り組みを行うことで、学習内容に深まりができています。
- ・調査内容をどのようにプレゼンテーションしていくかの部分に、大きな技術が加わっており、調べることを同様に示していく方法の重要性にも関心を持った。

その他

- ・とにかくすばらしかったです。お疲れさまでした。
- ・日頃の先生方と3人の生徒のコミュニケーションが深く信頼し合っている姿が伺えました。
- ・先生方の御指導と生徒の活動ぶりに感動しました。生徒との一体感がすばらしいです。何も知らない私が参加させていただき、少しかじってみたいなという気持ちにさせていただきました。どうもありがとうございました。
- ・西方中からの質問は、前もって準備したものなのか？

発表会後の研究協議から

(小値賀中・堺先生) 楽しい授業で、大変参考になりました。インターネットを駆使した授業を見たのは初めてですが、明日香さんなど生徒が馴れているという印象を持ちました。毎日生徒がパソコンを使うと先ほどおっしゃいましたが、特別な時間をとっているのか、それとも技術の授業として時間をもうけてあるのか、その点をお聞きしたいと思います。

(田中) パソコンはメディアルームに置いていますので、生徒たちはいつでもパソコンを

使える状況です。生徒は朝から学校へ来てメールを書いたりしており、使いたい時はいつでもパソコンを使えます。技術・家庭科では情報基礎の中で扱っていますが、今年の技術の授業では、自分たちでホームページを作るところまでできるようになっています。

- (小値賀中・島先生) 授業を通して西方中も、六島もお互いに協力的に進めていっているという印象を持ちました。テレビ電話を使ったのは2回目という事ですが、事前にチャットやメールを使って交流をしていたのでそういう関係が築けていたのではないかと感じました。西方中からの質問を聞いて、事前に発表内容を西方中の生徒は知っていたという印象を持ったのですが、発表資料は事前に送られていたのでしょうか。
- (田中) 事前に資料を送りました。西方中の生徒は、80名くらいの生徒がいますので、感想などを事前にある程度考えてもらうように送りました。また、こちらで資料を映し出しますので、向こう(西方中)では文字が見えない可能性があります。全体が見えるようにということを考えて、また、映し出されなかった場合に向こうのパソコンを使って映してもらうことも考えて事前に送りました。
- (小値賀中・横山先生) 生徒が生き生きと活動していてたくましく感じられました。質問に対する受け答えなど自分たちで活動できていたので大変感心しました。質問ですがオリエンテーションで行われた、ウェービング法について教えてください。
- (田中) 総合学習のテーマを決めるときに、課題設定のための方法としてウェービング法を用いました。今回の総合学習のテーマである六島から思いつくものをどんどんあげ、蜘蛛の巣のように広げていく方法です。そして、出てきたものを参考にしながら、生徒たちはそれぞれのテーマを設定しました。
- (大島小・濱田先生) 大島分校も児童が6人しかいないという、六島と同じような状況です。ホームページの立ち上げなどしようと思っていますが、パソコンの活用はなかなか六島のようにはいっていません。3人の発表もすばらしかったです。香さんの大唄の発表は、大島ともつながりがあるので大変参考になりました。学校に帰って生徒に大唄について話をし、質問などがあればメールを香さんに送ったりしたいと思います。
- (町議・立石さん) テレビ電話を使った授業ということで、大変興味深かったのですが、それよりも、パソコンを使った生徒のプレゼンテーションの仕方が大変すばらしかったと思います。インターネットを使わなくてもパソコンを使った研究発表の在り方と言う意味で大変すばらしかったと思います。プレゼンテーションに使ったソフトは何でしょうか。また、インフォメーションテクノロジーや相手にどうやって伝えられるかという技術の指導についてどうやってやってこられたのか、また、テレビ電話を使うということで今回取り組まれたのか、それとも、もともとやってこられたのでしょうか。
- (田中) 使ったソフトですが、マイクロソフト社のパワーポイントというプレゼンテーションソフトを使いました。このソフトは、今一番プレゼンテーションで使われているものです。ただ、このソフトは元々大人向けのものですので、Dr.シンプラーという子ども向けに使いやすくしたソフトを今回使用しました。ただし、小学生くらいだったらDr.シンプラーで良かったのかもしれません。3年生にはそのままでも良かったかもしれないと思いました。プレゼンテーションについてですが、生徒たちは今まででもい

ろいろな場面で発表をしており、今年は学習発表会でも同じような内容で一度発表をしています。生徒たちは基本的なWindowsの使い方をマスターしているので、パワーポイントの使い方もすぐに覚えました。基本的なことはできますので、工夫として音響などのソフト機能を教えると、生徒たちは楽しみながらプレゼンテーションを作りました。また、パソコンを導入した初期の段階で、2台のパソコンをネットワークでつないで、そこにメールサーバーを作り2台のパソコンでメールのやりとりをできるようにしました。ポストペットというメールソフトを使った2台のパソコンでのメールのやりとりを通して、楽しみながらパソコンの使い方になれていたことが、こういことができるようになった要因だと思います。

(堺先生) Netmeetingだとコストも安いので、テレビ電話より安くできると思うのですが、Netmeetingを使う場合の利用法として、どういうことが考えられるでしょうか。

(田中) テレビ電話は普通の電話と同じですので、今日の授業のテレビ電話の通話料は1時間ぐらいで約2,500円くらいかかっています。しょっちゅう使うとすれば、やはり使えないと思います。確かに、インターネット電話だと、インターネットと同じで、どこへかけても市内料金で行うことができます。そこで、今回もNetmeetingを使おうと思いましたが、問題点が見つかりました。インターネット上ではIPアドレスという絶対に重複しない番号が割り振られていますが、電話回線が回線しかないとそのままでは使えませんので、ルーターがそれぞれのパソコンに割り振ってくれます。電話回線がひとつで複数のパソコンを使っている場合、ルーターがどのパソコンかを判別することができず割り振ることができません。Netmeetingを使うことができないとわかって、今回はテレビ電話を使いました。ただし、電話代がかかるのでしょっちゅうすることはできないと思います。あと、回線の問題がありますが、今日のテレビ電話は電話回線がISDNですから12&bpsで2回線ですが、普通のテレビ電話は回線ですからもっと画質は悪くなります。ただし、ケーブルテレビや専用回線など高速回線を使えば、もっと鮮明な画質で気軽にできるようになると思います。

指導助言(小値賀中・山下校長)

今日はお疲れさまでした。これだけの授業をするために、相当な時間がかかっているのではないのでしょうか。六島だからできたのであって、他の学校ではなかなかできないのではないかと思います。六島の生徒がホームページを自分たちだけで作ったりできるようになるほど、本校や佐世保の生徒より先に使えるようになったのは、パソコンを使える先生が少ない中、田中先生をはじめとする六島の先生方の努力があったからではないかと思います。正輝君がバレーの試合で本校の生徒と混じって堂々とプレーをしているのを見た保護者が、「縮こまっているのではと不安でしたが、堂々とプレーしているのを見て安心しました。」と言っているのを聞きました。これは、インターネットや毎日が総合学習的な指導、3人みんなが動かなければならない、みんなが主役だという指導の成果だと思います。六島ならではのものができていると思います。他の学校へ行ってもこれを生かして、六島から出たらリーダー的な存在になって欲しいと思います。私も勉強していきたいと思います。

交流生徒集会<クリスマス集会>

中間発表会後、西方中学校からの提案により、12月22日に交流生徒集会を実施することになった。この集会は生徒会活動として、企画・運営を両校の生徒会が中心となり取り組んだ。電子掲示板やE-Mailで集会の内容について意見を出し合い、テレビ電話による合同の話し合いの場で意見をまとめ集会の内容を決定した。このテレビ電話による交流は3度目であり、すべて生徒同士で進行していった。六島分校の生徒が楽器による演奏を行い、西方中学校の生徒が歌うという企画について、音がずれてしまうのでうまくいかないのではないかという意見が出され

たが、音がずれても一緒に何かやりたいと返す場面があった。以前ならば相手の意見に対して自分の意見を進んで述べるというようなことは考えられなかった。この場面をみて、この交流が深まっていていることが実感できた。

当日の集会では、クイズ、合同演奏、合唱など生徒が主体となり、楽しい雰囲気で行進していった。

交流生徒集会<クリスマス集会>の流れ

時刻	内 容 (集会の流れ)	準 備	備 考
10:30	テレビ電話接続	テレビ電話	
10:40	交流集会 1. あいさつ 2. 開会の言葉 3. 六島分校の生徒・職員紹介		西方中生徒 生徒は一人ずつ自己紹介、 職員は生徒による紹介
10:50	4. 六島分校演奏“ファースト・ラブ” 5. 合同合唱“サンタが街にやってきた”	キーボード、ギター、鉄琴、リコーダー	六島分校の演奏で西方中の全校生徒が合唱
11:00	6. クイズ(西方中より出題) 1	クラスカード	
11:05	7. 西方中全校合唱		
11:10	8. 正輝手品披露		
11:15	9. クイズ(六島分校より出題) 2		
11:20	10. メッセージ交換 (1) 六島分校 (2) 西方中 11. 閉会の言葉 12. あいさつ		一人ずつメッセージを朗読 西方中生徒

1 予定時刻より早いときは11:05まで行う

2 予定時刻より早いときは11:20まで行う



「総合学習」最終発表会

「総合学習」の最終的な学習成果を発表する場として、2月28日に最終発表会を行った。最終発表会では、西方中学校は全校生徒が参加することになり、西方中学校からも1年生福祉体験活動、2年生職場体験活動についてのプレゼンテーションを行った。3年生は総合的な学習での学習成果をもとに、「住みよい街づくり」についてのシンポジウムを行い、六島分校生徒も参加した。また、本校（小値賀中学校）3年生2名も発表会に参加し、総合的な学習「小値賀の郷土学習」の成果として作成したWebページの紹介という形でプレゼンテーションを行った。

(a) 「総合学習」活動案

平成13年2月28日（水）10:45～12:35

第2学年男子1名，第3学年女子2名 小値賀中学校第3学年男子2名

交流校 西方中学校全学年

1.テーマ 「I live in六島 ～だからこそもっと知りたい～」

2.テーマ設定の理由

（省略）

3.指導目標

（省略）

4.指導計画

（省略）

5.本時

(1) 題材

「総合学習」最終発表 西方中学校との交流発表会

(2) 目標

学習の成果に対する意見を聞き、学習の振り返りを行うことにより、幅広い視野を身につけることができる。

これまでの学習から、明らかになったことや考えたことを発表し交流しあう中で、学習の成果や方法を学び合うことができる。

(3) 事前の活動

10/24～ E-mailによる交流

11/10 テレビ電話による交流 自己紹介，メールによる質問の回答等

11/14～ 六島分校ホームページに西方中との交流のための掲示板を設置し，インターネット上での交流を継続する

11/28 「総合学習」中間発表 西方中学校との交流発表会

2/23 シンポジウムに向けて，話し合いにより自分の意見をまとめる

2/26 司会者，発表順の決定

2/27 リハーサル

(4) 展開

段階	学習活動	形態	教師の支援	機器
導入	1.活動のめあてと学習の内容を	一斉	1-1.お互い自由に意見が出せる	

	確認する		ような明るい雰囲気をつくる。 1-2.1部プレゼンテーション，2部 シンポジウムの2部形式で行う ことを知らせる。	
(5分)	2.西方中のみなさんにあいさつ する	一斉	2.生徒の進行で進めていく。	テレビ電話 テレビ
展開	3.各発表を行う(1部) 西方中1年・・・福祉体験活動 西方中2年・・・職場体験学習 六島分校・・・I live in 六島 小値賀中・小値賀の郷土学習 (発表順) 香 正輝 明日香 西方中2年高橋・塩澤・廣田 西方中2年青木・中新井・中村 西方中1年石川・松永 西方中1年栗原・佐藤 小値賀中3年前田・近藤	個人	3.学習の成果だけでなく，工夫 や苦勞した点なども交え，自 分の言葉で発表するよう助言 する。 (テーマ) 六島の大唄について 昔と今の漁業場 椿油づくりを受け継ぐ 職場体験学習「建設会社」 職場体験学習「幼稚園」 福祉体験活動 福祉体験活動 小値賀の郷土学習	テレビ電話 テレビ スクリーン プロジェクター コンピュータ パワーポイント
(45分)	4.内容についての質疑応答，学 習の成果や方法について感想 を聞く	一斉	4-1.事前に発表資料に目を通して もらっておく。 4-2.参考になる意見等をメモして おくよう助言する。	プリント
(10分)	(休憩)			
(40分)	5.「住み良い街づくり」をテーマ にシンポジウムを行う(2部) (1)司会者がテーマ，進め方を説 明する (2)各班より代表者が意見を述 べる ・西方中3年生(4グループ) (3)参加者が発表者への質問や意 見の発表という形で，討論し ていく (4)司会者が話し合いのまとめ をする		5-1.司会者は西方中生徒。 (5-2.代表者の意見は自分たち が調べた内容を中心に述べる よう助言する。) 5-3.「住み良さとは何か」につ いて，事前に自分の意見をま とめさせておく。 (5-4.司会者は問題点や発表者の 意見の相違点をまとめ，話し 合いを深めていくよう助言す る。)	テレビ電話 テレビ プリント
まとめ	5.西方中と六島分校のこれまで の交流学習を振り返っての感 想，卒業までの交流について	個人	5.交流学習を行ってきた良かった こと，卒業までに取り組みたい ことなどを発表させる。	テレビ電話 テレビ

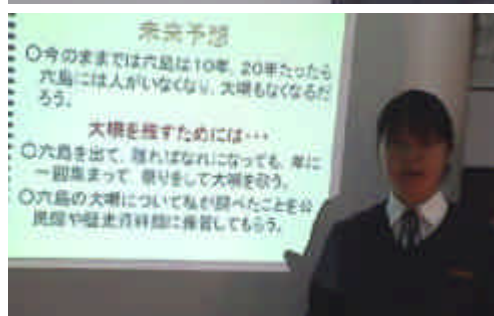
	の思いを発表する		
	6.西方中みなさんにお礼のあいさつをする	一斉	
(10分)	7.本時のまとめ	一斉	

(b) 最終発表会について

最終発表会は地域のみなさんへも案内を出し、約20名のみなさんに参観していただいた。生徒の発表は、中間発表に続き2回目ということで、落ち着いた態度で発表できていた。発表内容もしっかりとポイントを押さえており、学習の中で実際につくった椿油の実物を見せたり、自分で作った唄を歌ったりと表現方法にも工夫がみられた。

西方中学校側の発表の場面では、電話回線がたびたび切れたため、発表内容を十分理解することができないようであった。

2部のシンポジウムでは、予定より時間が短かったために十分な討議の時間を確保できなかったが、2人の生徒は自分の意見を述べる事ができた。シンポジウムやパネルディスカッションのような形式の討論を実現できない環境にある生徒にとっては、貴重な体験となった。



西方中学校卒業式、六島分校卒業の集い

今年度最後の交流活動として、西方中学校の卒業式に六島分校の生徒が、六島分校の卒業の集いに西方中学校の生徒が、テレビ電話を使ってメッセージを送りあうことを計画した。西方中学校の卒業式では、六島分校の生徒がそれぞれお祝いのメッセージを送り、3人で「未来へ」を演奏した。六島分校の卒業の集いには、西方中学校の3年生だけの参加の予定であったが、六島分校からのメッセージが感動的であったということで、全校生徒が参加してくれることになった。西方中学校からはメッセージの他に、六島分校の生徒が描いたイラストのキャラクターの人形や六島分校の生徒が作った詩に西方中学校の生徒が曲をつけた歌のプレゼントがあり、とても感動的であった。



(6) 実践の成果と課題

インターネットを活用した交流学习と「総合学習」

インターネットの導入は、遠く離れたところとの交流を可能にした。コンピューターやインターネットは学習に楽しみを与えてくれる、無限の可能性を秘めたツールである。その特性を生かし、今年度はインターネットを活用した交流学习について研修を行ってきた。

子どもが主体的に問題解決的学習に取り組む「総合学習」では、課題設定の視点、追究方法、表現方法について他の生徒の考えを知ることで、自分の考えを深めたり、創意工夫することができ、「総合学習」を中心に交流学习に取り組んだ意義は大きい。また、交流学习を行った西方中学校、本校も六島分校と同じ“地域”をテーマに学習しており、お互いの学習成果の発表を通して意見交換ができ、地域・郷土のについての考えを深めることができた。

栃木県西方中学校との交流学习

栃木県西方中学校とは、「総合学習」の中間発表会と最終発表会、生徒会交流クリスマス集会、卒業式と交流学习を行ってきた。当初は「総合学習」の中間発表会だけの計画であったが、それだけで終わらず継続して交流ができたことは大変意義があった。「総合学習」中間発表会では、テレビ電話を通して多くの生徒の前で発表するという初めての体験で、かなり緊張していた。しかし、インターネット掲示板などでの交流を深めていくうちに、最終発表会では落ち着いて堂々と発表ができ、意見交換の場面でも進んで自分の考えを述べることができた。遠く離れたところに友だちができたことを、生徒たちは大変喜んでおり、自分たちとは違った意見に触れ、学習も深まったようだ。テレビ電話での発表会では、生徒の発表についての意見や感想がなかなかでなかったが、発表会後にインターネット掲示板で感想が寄せられたり、発表会時に書かれた感想を送ってもらうことができ、今後の学習の参考になったり、自分の学習に対する成就感も味わうことができた。

生徒は交流学习に意欲的で、交流のためのインターネット上の掲示板の設置を提案したのは六島分校の生徒であった。生徒会による交流集会・クリスマス集会では、両校の生徒会が計画・運営を行った。インターネット掲示板を通して集会の内容について提案をしたり、テレビ電話での合同会議で最終的な内容を決定した。この段階で生徒同士で話し合いが行えるようになっていた。

今年度の交流学习のしめくくりとして、お互いの学校の卒業式、卒業の集いにテレビ電話でメッセージを交換した。この交流学习が「総合学習」だけにとどまらない深まりを感じさせた。生徒同士で文通をしている者もいて、学校の学習での交流だけのつきあいにとどまらず、本当の友だちをつくるまでに至ることができた。

六島分校の生徒は中学卒業後、島を離れ大勢の生徒たちに混じって学習をすることになるが、西方中との交流を通して、そういった環境の中でもやっていけるという自信をつけることができたのではないだろうか。また、他の地域の学校の生徒の学習の成果を見たり聞いたりしたことによって、自分の学習を進める上での参考にもなり、さらに自分の考えを深めることもできた。また、生徒たちだけでなく、我々も他地域の生徒たちの学習の様子を知ることができたことは、その学習の進め方など生徒への支援を行うときの参考として大変意義があった。西方中の生徒の発表を聞くことができたことは六島の生徒の発表を客観的に見られる良い判断材料ともなった。



今後の取り組み

この研究を通じて、インターネットの特色を理解し、いろいろな学校のインターネットを利用し

た取り組みを知ることができただけでも、今後の実践の参考になった。今年度インターネットやテレビ電話を使った交流学习に取り組んだが、このような実践を日常的に行っているもっと進んだ学校が全国には数多くあることを知り、大変刺激を受けた。インターネットを活用することで僻地や小規模校における様々な課題を克服することができる。子どもたちにより良い学習環境を提供するためにも、今後も研究を重ね、インターネットを活用した交流学习に取り組んでいかなければならないと思う。

2.各教科でのインターネットを活用した交流学习の実践

(1) 英語科におけるインターネット及びホームページの活用

実践者：川下教諭

情報収集

図書室・・・

地理的な情報になりがちで、文化の違いについての情報はなかなか入手できなかった。

インターネット・・・

- ・ アジア、アフリカといった従来手に入れにくかった国の情報も簡単に入手可能
- ・ 文化の違いについても、海外在住の日本人が解説しているサイトなどから入手可能
- ・ 音声や動画などを使った魅力的な教材

(a) 魅力的なサイトの活用

英語と日本語が併記してあるサイトの活用

“WNN Asia” <http://www.wnn.or.jp/wnn-asia/index.html>



中学生の段階においては、英語だけがかかれてあるサイトを理解することは難しい。日本語と英語の併記してあるホームページなどを積極的に活用していきたい。

このWNN Asiaでは、画像などがふんだんに使っており、授業で使って大変効果的だった。



また、このサイトにあるアジアの国の“なぞなぞ”に生徒は興味を持って取り組んだ。

インドネシアのなぞなぞ

Answerをクリックすると答えが出る。

生徒たちは、なぞなぞを通して、同じアジアの国の文化に触れ、日本との共通点を実感したようだった。

(b) 英文E-mailを書くときに参考になるサイト

“英語でEメールを書こう”

<http://www.wnn.or.jp/wnn-s/e-mail/index.html>

バーチャルE-mailのコーナーもあり、質問に答えていくとメールが届く。英語でE-mailを書くときの参考になる。



“Celebrity Email.com” <http://www.prosportsemail.com/indexS.htm>



プロスポーツ選手や歌手など有名人にファンレターを送ることができる。英文E-mailを書くときの動機付けになる。生徒は、自分の知っている単語を追いながら、内容を理解しようとしていた。また、掲示板に載っているファンレターを参考にしながら、E-mailを書いていた。

ホームページの利用

(a) 情報発信の場

- ・自己表現の発表の場として

コミュニケーション能力の育成	読み手に分かりやすいように、文字を中心として絵や音声、映像などを工夫しながら使わせることにより、コミュニケーション能力が育成される。また、コミュニケーション能力の中でも、特に、書く力が育成される。
英語学習やコミュニケーション	生徒の作品をホームページに掲載し、作品の感想などを

への意欲・関心を高める

もらうことにより、英語学習やコミュニケーションへの意欲関心を高める。

(例) 日本文化紹介

July 7 Tnabata Festival (The Star Festival)

	<p>July 7 is Tnabata Festival.</p> <p>We decorate a bamboo with Tenziku. (Tenziku is a piece of paper.)</p>
	<p>This is a picture of people decorating a bamboo with a Tenziku.</p>
	<p>This is Tenziku. We write wishes in Tenziku.</p> <p>For example "I want to be a smart," "I want to be an English teacher" etc...</p> <p>They say that the wishes written in Tenziku will come true.</p>

生徒たちは絵や写真を使いながら、日本文化について説明を書いた。従来は、図書室の本を使ってまとめていたが、情報もなかなか集まらず、発表の場もなかった。インターネットを使うことにより情報収集も容易になった。また、ホームページを作成し、公開することで読み手を作ることができた。

更に、カナダやイギリスの人より、伝統行事について情報を得ることもできた。

	<p>This is Orihime and Hikoboshi.</p> <p>Orihime and Hikoboshi were lovers.</p> <p>Hikoboshi didn't work very hard.</p> <p>He played with Orihime all day.</p> <p>God looked at them, and got angry.</p> <p>"Hikoboshi! Work very hard, or I will separate you from Orihime." God said to Hikoboshi.</p> <p>Hikoboshi and Orihime couldn't meet because he didn't work hard.</p> <p>He changed his mind, and began to work very hard.</p> <p>God looked at his hard working and God said "Once a year you can meet Orihime."</p> <p>Hikoboshi and Orihime meet at Amanogawa (Milky Way) once a year on July 7.</p> <p>So we celebrate Tnabata Festival on July 7.</p>
---	---

(例) 生徒のページ

Quu's family International version

The costumes all over the world (I think costume). I introduce the ethnic costume (which Quu wears). How I draw the costume *****18 countries*****]] do my best! (2)

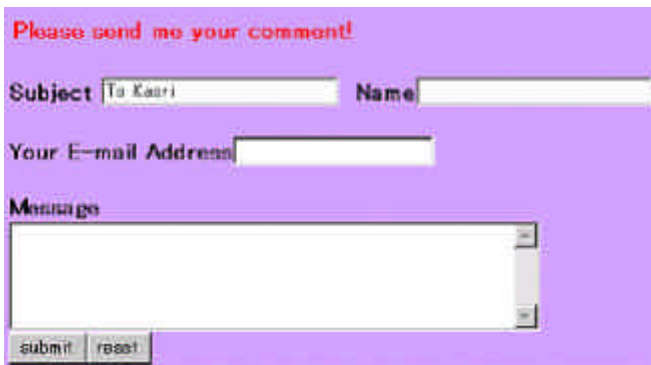
*****Let's check it out!*****

<p>Malaysia</p>  <p>U.C.</p>	<p>The uniforms of Malaysia</p>  <p>The Netherlands</p>	<p>Cook Island</p>  <p>Australia</p>
---	--	---

生徒たちは、もともと日本語で自分たちのページ作成を行っていた。英語の授業で、いろいろな取り組みを行っていくうちに、自発的に英語のページを作りたいと言い出した。

メールフォーム

生徒は、自分の作品の発表の場を欲しがっており、また、その反応があることを期待している。メールフォームをつけたいという要望があった。



(b) 交流のベースとして

交流募集のサイトで交流相手を募集する場合、学校のサイトのURLも一緒に載せたほうが反応は返ってきやすい。また、交流を行うにあたって、学校のサイトに学校の様子や交流を行うための施設や設備を紹介しておけば、交流は進みやすい。また、掲示板ではサイトで直接交流をすることができる。



今後の課題

分かりやすいページにするため、また、英文を補う一助として、映像や音楽は有効であるが、プロバイダーを利用していた場合、映像や音楽をホームページに載せようとしたとき、データサイズが大きくなるので制限されてしまう。

交流

(a) E-mail

生徒たちが意欲的に返事を書いたのは、カナダのヴィクトリア、ロシア、フランスといった英語を母国語としない国の人であった。



アメリカなど英語を母国語とする国からのE-mail

・・・文章も長く、スラングも多い

フランス・ロシアなど英語を母国語としない国からのE-Mail (下の画像はカナダ・ヴィクトリアからのもの)

・・・文章も短く、英語もわかりやすい

英語を母国語としない国からのE-mailは英文も短く、簡単な英語なので中学生でも分かりやすい。相手も母国語ではないので、間違いもあるが、英語でコミュニケーションをとることに重点をおかせ、間違いもあまり気にせず書くように支援した。

効果	・本を見ながら何度もメールを書いているうちに、自己紹介をはじめとする簡単な英語は身についたようだ。
課題	・生徒たちに任せていても、文化の違いに関することまでなかなかいかず、長続きしにくい。教師同士が緊密に連絡を取り合い、今後の交流につなげる。また、なかなかメールの返事がこない場合は、別の相手を探して紹介することも重要である。 ・日本語を学習している外国の生徒との交流にも今後取り組んでいきたい。

(b) Exchange Project

School Life

フランスから学校生活に関するメールが届いた。

E-mail from France

Contents

Timetable

Meals on the school restaurant

Holiday

Hello Japan !

What's your name ? we are classes 204/205/201

Here is some news about our school

Our high school is located in Monts, on a hill. There are 7,000 inhabitants in Monts.

Our school is near the station. There are a lot of trees around the school. From the classrooms we can hear the trains. They are noisy!

The name of the school is "collège du val de l'Indre" because it is located in the valley of a small river called "l'Indre".

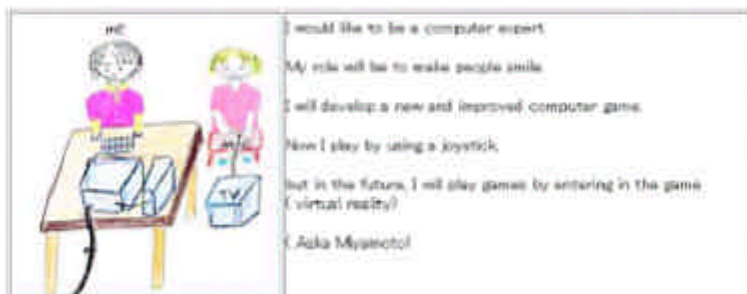
The school is 26 years old. There are 3 floors and 3 buildings. We've got a big playground and a field. We've got 1 gymnasium and 2 tennis court.

Our Headmaster / principal in french is often angry !!

フランスは水曜日も休みだということや給食のメニューなどに生徒たちは興味を示し、内容を読み取ろうと一生懸命だった。英語も簡単なので、分かりやすかった。この英文を参考に、自分たちの学校生活を書いて送った。写真などを使わなかったことが、悔やまれる。

What is in our future?

What is in our future?



教科書の題材のまとめとして、将来の自分や、21世紀がどういった世界になるかといったことについて、意見を書かせ、広く意見を集めようとした。メールフォームを設置したり、交流のサイトで反応のあった人に呼びかけてみたが、多くの意見を集めるのはなかなか難しかった。E-mailの交換をしているアメリカの生徒、また、近隣の島の中学校の生徒から意見を聞くことはできた。一対一の交流を行う中で、


テーマを決めて意見交換を行うという形であれば、実現しやすいものと思われる。また、一度交流を実現した学校とは連絡をとりつづけておくことも大切だと感じた。

小値賀中学校本校との交流

教科書の題材のまとめとして、"What is in our future?" ということによって、21世紀がどういった世界になるか、また、将来の自分について本校の3年生と意見交換を行った。

- (i) 本校の3年生英語科担当の先生とALTにワークシートと六島分校の生徒の意見を渡し、本校の生徒との意見交換を依頼する。
- (ii) 六島分校のワークシートを元に、本校でも新たにワークシートを作成。
- (iii) 本校の生徒も同じ内容でワークシートを元に、英作文を行う。
- (iv) 分校の生徒に、本校の生徒の作品を見せていただく。
- (v) 本校の生徒の作品を見て、分校の生徒が感想を書き、本校の生徒にその感想を送る。
- (vi) 成果については、ホームページに掲載した。

Djika Junior High School Students



In the future, I would like to be a farmer. I think it is important to increase food production. I will work hard to gain more knowledge and skills. I work together with Kawakubo on a farm. (Mitsunori Umada)

In the future, I would like to be a veterinarian. I think it is important to save many animal's lives and care of their owners. I will work with living things and learn a lot. I want happiness for everyone. (Kidemu Kosaki)

Asuka and Kaori's comment

The dreams which you wrote are very good!
I'm happy to hear your opinion which I didn't know.
There were a lot of cute pictures.
I'm looking forward to meeting you again.
(Asuka)

I saw "What is in our future?" which you wrote.
There are many dreams.
Some dreams are interesting. Some dreams are very cool.
All dreams are very good. I'm very glad to hear many opinion.
I'll do my best so that dreams come true.
So do your best, too!
(Kaori)

成果

月に一度の交流を行っているため、顔と名前が一致することや、題材が将来の自分についてであったためか、分校の生徒たちは、本校の生徒の作品の内容を読み取ろうと一生懸命になっていた。絵を使っていたこともあって、英文を読み取るときの参考にもなったようだ。また、本校で新たに作られたワークシートは、今後の参考にもなった。

課題

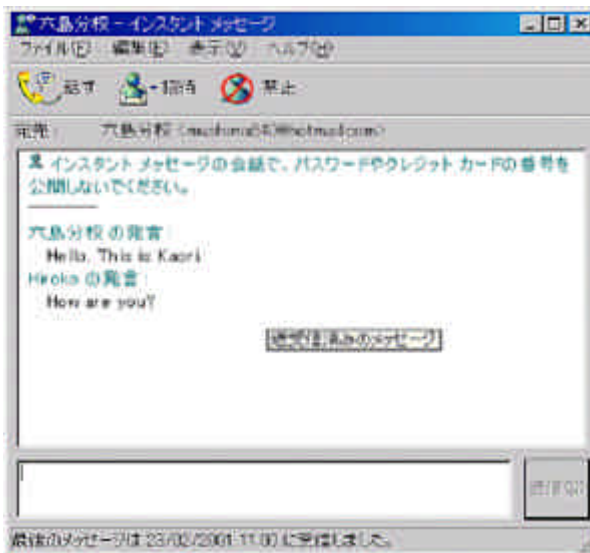
ワークシートの作成など、本校の先生と話して共同で作ることができたら、もっといいものができたのではないかなと思う。また、それぞれの作品を見た感想の交換や、更に内容を深めて、ディベートやディスカッションなどを行うことができたら、より内容が深まるのではないかなと思う。時期など考え、早いうちから計画しておけば、こういった取り組みもできるのではないだろうか。

Chat

MSN Messenger ICQ mIRCを使ってALTやアメリカ人とチャットを行った。

チャットを行う上で、コンピューターのキーボードの操作になれているとはいえ、はじめは、なかなか会話が進まないのではないかと心配した。そこで、あらかじめ自己紹介や質問を用意させた。また、相手にも生徒たちが返事に時間がかかるかもしれないことを伝えておいた。

私の心配をよそに、生徒たちは、エディタであらかじめ用意した自己紹介や質問などの文を入力しておき、それを必要に応じてコピーし、会話を入力する欄に貼り付けして、思ったより、スムーズに会話を進めていた。手元に、辞書や簡単な会話の本を置きながらではあるが、チャットをすることができた。



<p>効果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・リアルタイムで外国の人と会話ができるのは、なんと言っても魅力である。英語の学習への動機付けとなる。 ・新しい会話の形であり、スラングなどもあるものの、生きた英語の表現が学べる。 ・定期的にチャットを行うことができれば、コミュニケーション能力も育成されていくものと思われる。
<p>問題点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・欧米とは時差があり、リアルタイムでの交流はなかなか難しい。時差が比較的少ない、アジア、オーストラリアが実現しやすいだろう。 ・PCカメラやテレビ電話を使うとなると、機器を持っているところは限られてくる。NetMeetingであれば、フリーソフトであるため、交流相手は探しやすいものの、通信を行うにあたっては、音声聞き取りにくかったり、通信がまだまだ不安定である。 ・ダイヤルアップ接続の場合、MSN Messenger, NetMeetingなどは、接続ポイントまでの電話料金ですむが、通信の安定しているテレビ電話を使えば、交流相手の国までの国際電話の料金がかかる。 ・オープンなサイトでのチャットなどを使うとなると、セキュリティは問題となってくる。安心してチャットを行える環境作りが必要。

問題点はあるものの、やはり効果は大きい。将来的には、テレビ電話やNetMeeting, Cu-See Meなどを使い音声や映像を使って交流したい。

交流を進めるにあたって

私自身、E-mailでの交流は簡単に行えたが、プロジェクトを組もうとしたりすると、なかなか交流がうまく進まなかった。いろいろな方に交流の方法などについて教えていただき、次のようなことが分かった。

(a) 交流校募集の方法

交流募集のホームページとメーリングリストへの参加

- IECC <http://www.iecc.org/>
- I*earn <http://www.iearn.org/>
- Kidlink <http://universe.kidlink.org/>

こねっと国際交流 <http://www.wnn.or.jp/wnn-s/international/> など

国際交流のためのホームページでは、交流校を探している学校や交流を行うときのヒントとなる情報を得たりすることができる。メーリングリストの参加は、交流をはじめとする情報収集の意味でも参加の意義は大きい。メーリングリストで、交流が長続きしないことを相談したところ、上記のようなホームページに関する情報や、交流のコツなどを教えていただいた。また、実際にテレビ電話などを使って交流を行っている人を紹介していただいたりもした。ひとりで交流がうまくいかないことを悩んでいたが、メーリングリストへの参加によって、多くの指導、援助を受けることができた。

(b) 時期

交流学习を行う時期を考慮する。海外の多くの学校が9月に学校が始まること、大きな休みなどを考慮し、年間行事などを、交流の早い時期にお互い知らせておき、交流学习の計画を立てておく。

(c) 交流の進め方

(i) メールで自己紹介を行う。

(ii) 簡単なメールのやり取りを行う。

- ・生徒同士のメールのやり取りと同時に、教師同士も連絡を取っておく。
- ・学校のホームページの掲示板の利用や、メーリングリストを組んだりすることによって、交流を盛んにすることができる。

(iii) 本格的なプロジェクトへ

- ・簡単なメールの交換からはじめ、交流を継続させる中で、プロジェクトを行っていく。

(d) その他

広くいろいろなところから意見を集めるより、交流相手を絞って、年間を通して内容の濃い交流を行っていくことも必要。

実践の成果と今後の課題

インターネットの魅力はなんと言っても交流である。長文読解や英作文を行うとき、いやいやながら行っている生徒でも、海外からのE-mailの内容を読み取ろうと必死になり、楽しそうにその返事を書いている様子を見ると、その効果を実感させられる。学校のホームページの掲示板やメールを通して、いろいろな国の文化に触れたり、リアルタイムで行うチャットに時差を実感したり、インターネットを使う前には簡単にはできなかったことだ。

生徒たちは英語のメールを書いたりするときは、まだまだ教師の支援が必要な状態であるが、数多くのメールを楽しんで書いたり読んだりするうちに、英語で書くことにもなれてきている。短くてもいいから、E-mailは必ず早く返事を出すようにと指導していたら、私が学校を休んでいる間にきたメールに対して、必死になって自分たちで返事を書こうとしていた。学校のサイトの掲示板には“ That's great! I love Mushima,too.”という何とかして返事を書こうとしたと思われる、本当に短い返事もあった。

私自身、インターネットの利用についてはまだまだ勉強中で、課題も多い。なかなかうまくいかないこともある。チャットを行おうとして、接続がうまくいかないことがあった。しかし、私がコンピューターと格闘している間、ほったらかしにしていた生徒たちは、気付いたら、自分たちだけでアメリカやデンマークの人たちと英語でチャットをしていたのである。その生き生きと活動している様子を見て、なんとしても、そういった機会を設け子供たちを支援していかなければならないと感じた。今後も、生きた英語を学べる場としてインターネット・ホームページを活用していきたい。

(2) 国語科における実践

実施学年：第2学年 実施単元：小説「走れメロス」 実践者：俵教諭

実施内容

長与中学校の研究発表で国語を中心としたコンピュータを使い、メロスの生き方について各学級の意見をもとに読みを深めようという取り組みで、それぞれの学級の考え方についての意見や、メロスの生き方、王の生き方、セリヌンティウスの生き方について賛否を問うものであった。

長与中学校の生徒の取り組みに関して

それぞれの学級で工夫を凝らした取り組みをしていて、生徒たちも生き生きと取り組んでいる様子が伝わってきた。

感想

取り組みはたいへんすばらしいことだと感じました。時間配分はどうしているのかと思いました（最初から取り組むのには多くの時間が必要だと感じたので...）。自主的取り組みが随所にみられ、次の国語の時間が待ち遠しい様子が感じられた。

(3) 学級活動・美術科における実践

実践者：前田教諭

学級活動における実践

平成13年3月を持って閉校する学校の取り組みや生徒の活動・交流を通し、来年度の閉校行事に対する意識の高揚をはかる目的で、島根県三隅町立井野中学校にメールを送り交流を試みた。

（井野中学校から反応がなく交流は実現しなかった。）

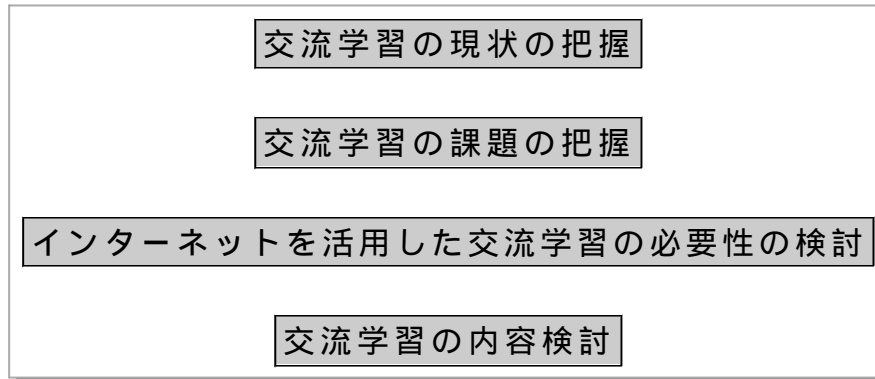
美術科

コンピュータを活用してイラストや文字のレタリングを積極的に行い、各行事のスローガン等を描くのに役立てた。

3.本校とのインターネットを活用した交流学习についての研究

六島分校では、現在、年間20回程度、本校の授業や行事に参加するという形で本校との交流学习に取り組んでいる。小規模校における様々な課題を克服するためにも、交流学习は積極的に推進していくべきであるが課題も多い。今年度、本校にもインターネットに接続できる環境が整ったことを機会に、インターネットを活用した本校との交流学习について研究することとした。

インターネットを活用した本校との交流学习の研究を進めるにあたって、次のような流れで進めていくことにした。



(1) 本校との交流学习の現状の把握

今年度の交流学习

行事

- ・ 歓迎遠足
- ・ 修学旅行，野外活動（事前指導1）
- ・ 体育大会（練習・準備3）
- ・ 文化祭
- ・ 駅伝大会（試走1）
- ・ 卒業式（練習2）
- ・ 中体連（球技・陸上）

授業のみの交流学习

学期 - 回，2学期 - 2回（3年生のみ薬物乱用防止講演会1），3学期 - 2回

交流学习日の日程

本校までの移動・・・六島7:50発，小値賀8:25着，本校8:50頃着

- ・ 1校時の途中から昼食まで本校の授業に参加

六島までの移動・・・小値賀14:05発，六島14:25着，分校14:35頃着

- ・ 6校時から分校で授業

行事に参加する場合は，本校の授業に1校時から6校時まで参加するときもある。

(2) 本校との交流学习についての生徒アンケート

交流学习のどういうところが楽しいですか。

- ・ 友達と話することができるから。
- ・ たくさんの人たちと机を並べることができるから。
- ・ 友達と昼休みに会話すること。
- ・ パソコンを扱うことができること。
- ・ みんなと休み時間やお弁当の時間などに話すのが楽しい。
- ・ 女の子と顔を合わせるのが楽しい。

交流学习で困っていることはありませんか。

- ・ 授業の進度が違うのでわからないときがある。
- ・ 時間が違うのでいつからいつまでが昼休みなのかなど，よくわからない。

- ・勉強しているところが違うのでやりにくい。
- ・授業が難しくてわからない。
- ・みんなと一緒にいると緊張する。
- ・間違えたときに恥ずかしい。

本校の行事に参加するとき、楽しいと感じるようなときはどのようなときですか。

- ・(体育大会で)みんなで応援するとき。
- ・団体行動ができること。
- ・グループになって、いろいろな所に行ったりするところ。
- ・本校の人と話しているとき。

行事に参加するとき、困っていることはありませんか。

- ・ダンスのビデオなど、六島に届くのが遅くて、練習が早めに取りかかることができない。
- ・グループになって、小値賀とかの話になると、よくわからないので会話に入りにくい。
- ・急にいろいろなことを覚えなければならない。
- ・準備がたいへん。

本校の人と一緒にやってみたいことはありませんか。

- ・六島のこと、六島分校のことをよく知ってもらうために、六島に遊びに来てほしい。そして一緒にスポーツをしたい。
- ・パソコンを使って、一緒に何かしたい。
- ・保体の授業で球技の試合に参加したい。

(3) 本校との交流学习の課題

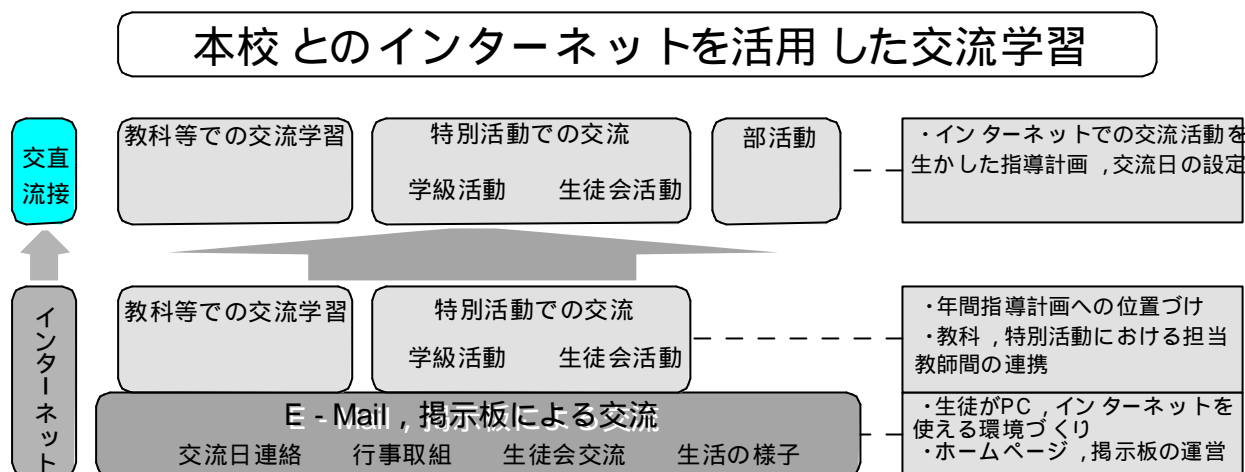
本校との交流学习の現状と生徒アンケートから、課題として次のような点が挙げられる。

- ・交流学习の回数が限られる。
- ・本校行事の事前活動に参加できにくい。
- ・各教科の授業での、学習進度がずれている。
- ・本校までの移動のために時数が消化される。

(4) インターネットを活用した本校との交流学习の必要性

交流学习の第一の目的である、集団の中で協調性を高めたり、他人の意見を聞いてさらに自分の考えを深めたりするためには、直接交流を行うことが理想である。しかし、直接の交流学习を頻繁に行うことは不可能である。また、来年度は生徒が一名になり、さらに交流学习が重要になる。したがって、直接の交流学习を補うためや日常的に本校生徒とコミュニケーションを深めるために、インターネットを活用し交流を行うことは必要であると考えた。

(5) 直接交流学習の補充としての交流学習



インターネットを活用した交流学習の位置づけ

- (a) 直接の交流学習（分校生徒の本校への参加）を生かすために，インターネットを活用した交流学習に取り組む。
- (b) E - Mail，学校サイト上の電子掲示板を活用した日常的な交流を交流学習の基盤とする。

インターネットを活用した本校との交流学習の取り組み

- (a) 本校，分校の生徒どうしの，学校サイト上の電子掲示板による交流
 - ・西方中学校との交流に使っている学校サイト上の電子掲示板を利用
 - ・生徒が電子掲示板にメッセージを書き込むための環境づくり（生徒のコンピュータ室の利用）
 - ・交流学習日の教科連絡等の親学級生徒との連絡
 - ・お互いの学校生活の様子などのメッセージのやりとり

分校において
 昼休み・放課後等の時間を利用して，掲示板のメッセージを確認したり，メッセージを書き込む。また，掲示板を利用した交流が継続するように，毎週水曜日の朝自習の時間を掲示板での交流の時間とする。

本校において
 親学級を中心として，生徒がホームページ掲示板を連絡や交流学習のために利用できるようする。

- (b) 分校「総合学習最終発表会」への本校生徒の参加
 来年度分校生徒が一名になることで，本校生徒の分校行事への参加に先がけて2月28日（水）に行う「総合学習最終発表会」への本校生徒が参加する。

本校生徒の参加について

- ・参加生徒の学年・学級，人数については，本校において検討する。
- ・本校生徒も「総合的な学習の時間」での学習成果（3年生が郷土学習で作成したホームページ等）の発表を行う。
- ・発表会以外の時間は，分校の授業に参加。

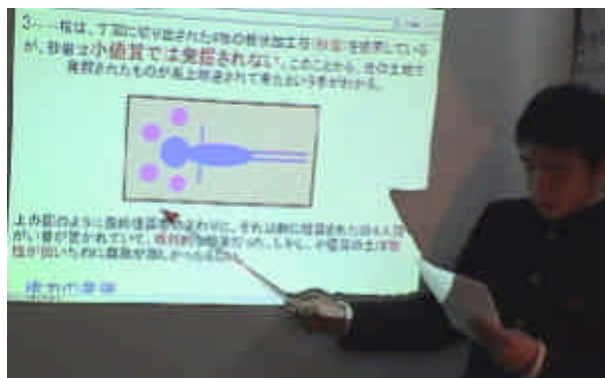
教科における交流学習

教科における交流学習については，学習内容・方法等を両校の担当教師間で連携し計画していかなければならないので，すぐに実践するのは難しい。今後親学級や生徒会を中心とした交流を進めていく中で，教科における交流学習の可能性を探っていく。

- 英語科におけるALTとのNetMeetingやMSN Messengerを使った交流学习
 ねらい 天候の都合などで普段なかなかできないALTの先生との授業をインターネットを使って行い、生徒のコミュニケーション能力を育成する
- 内容 ・本校のコンピュータ・インターネット回線を使用する。
 ・文字や音声によるチャットを手始めに行う。できれば、映像も使って行く。映像を使うことにより、普通のティームティ칭ングに近い形の授業が可能となってくるものと思われる。

(6) 実践の成果と課題

本校親学級生徒と分校生徒のインターネット掲示板による交流は、年度内には実践できなかった。来年度当初に本校親学級担任とインターネット掲示板による交流について、活動時間の確保、交流内容等を打ち合わせる必要がある。「総合学習」最終発表会への本校生徒の参加は実現することができた。本校3年生2名が参加し、「総合的な学習の時間」の郷土学習の学習成果として作成したWebページをもとにプレゼンテーションを行った。分校の行事等への本校生徒の参加ははじめてであったが、分校の生徒が本校の生徒に発表会の流れや機器の操作等について説明したり、いっしょに討論会に参加したことで、お互いについて知るよい機会ともなった。休み時間などに今までよりうち解けて生徒たちが話しているのが印象的だった。こういった共同で活動する場面を多く設定することにより、形だけになりがちだった各種行事への参加などもより意義あるものになるのではないだろうか。特に生徒アンケートにある本校の生徒の話題についていけないとか、みんなと一緒にいると緊張するといった問題点は改善されていくものと思われる。今後、インターネットの利用により交流を日常的なものにし、月一度や行事などでの直接的な交流との相互作用で、大勢で学習活動を行う喜びや成就感などを味わわせたい。そのために、生徒だけでなく教師同士も連携を深めていく必要がある。普段から親学級の担任の先生には分校の生徒のことを気にかけていただき、行事のときにはグループ編成などでかなり配慮していただいている。しかし、本校生徒が分校生徒を学級の一員としてみていくには、教師の支援がまだまだ必要である。分校の教師側で積極的に交流を持ちかけ、生徒同士で交流していく場面を多く設定し、交流がよりスムーズになるように分校教師と本校教師とが連携をとり、支援していかなければならない。



おわりに

3月15日の卒業の集いで、六島分校の生徒がつくった詩に西方中学校の生徒が曲をつけた歌を歌ってくれた。とても感動的な場面で、この交流の深まりを感じた。その曲のタイトルは“縁”である。西方中学校の生徒は、“縁”ということばをこう紹介した。「“縁”にはふたつを結びつける運命の力という意味が込められている」と。遠く離れた学校の生徒同士がひとつのものをつくりあげたこの“縁”は、今回の交流を象徴するものである。



日頃少人数で学校生活を送っている子どもたちは、今回の西方中学校との交流で多くの同じ年代の子どもたちとのふれあいの楽しさ、多くの人とともに学ぶ喜びを味わうことができた。小規模校においては従来から、異学年または小中学校の交流による行事の取り組み、地域との合同の行事等、小規模校であるが故の課題を克服するための取り組みを積極的に行ってきた。しかし同学年同士の交流や大勢の中で学ぶ機会は、数少ない交流学习に限られていた。今年度の研究テーマである「インターネットを活用した交流学习」に取り組むことで、他の地域の多くの学校との交流学习を可能にした。子どもたちは毎朝登校すると学校に届いているメールに返事を書いている。中には外国の子どもとのメールのやりとりもあり、自分で辞書を引ながら一生懸命返事を書いている姿が見られるようになった。交流の楽しさを味わったことで、主体的に学習に取り組む態度が身についてきたといえるであろう。

今年度の研究は、大人数の中での学習が困難な僻地・小規模校の実態を補完する役割をもって始まった。インターネットを活用することは、どんな学校においても多様な学習環境を提供する。また、現在のグローバル化社会において国際理解を深めるためには、インターネットは欠かせないものとなってくるであろう。「インターネットを活用した交流学习の研究」における取り組みは、これからの教育活動の先駆的なものであったといっても過言ではないだろう。

今年度2名の生徒が卒業し、来年度は生徒1名の超極小規模校となり、交流学习への取り組みの必要性もさらに増すであろう。来年度も今年度の実践を継続させ、この研究を発展させていきたい。

謝辞

今年度の研究を進めるにあたって、交流校である栃木県西方町立西方中学校の鈴木龍一先生には交流学习の打ち合わせ等でたいへんお世話になった。また、全校体制でこの交流学习に対応していただいた西方中学校の校長先生はじめ諸先生方には深く感謝したい。

この研究での交流学习で欠かすことのできなかったテレビ電話の借用にあたっては、NTT西日本長崎支店の大岩憲一様、長崎県教育委員会学校教育課の江崎敏夫指導主事、長崎県教育センター第二研修課三根行親指導主事のみなさまにもたいへんお世話になった。この場を借りて御礼申し上げます。

平成13年3月

校内研究担当 田中秀明

✉ mem@msi.biglobe.ne.jp

<平成12年度 小値賀中学校六島分校職員>

教 頭 岩本光之
教 諭 前田公彦
教 諭 依竜二
教 諭 川下博子

教 諭 田中秀明
養護教諭 湊上和美

六島分校関係WebサイトURL

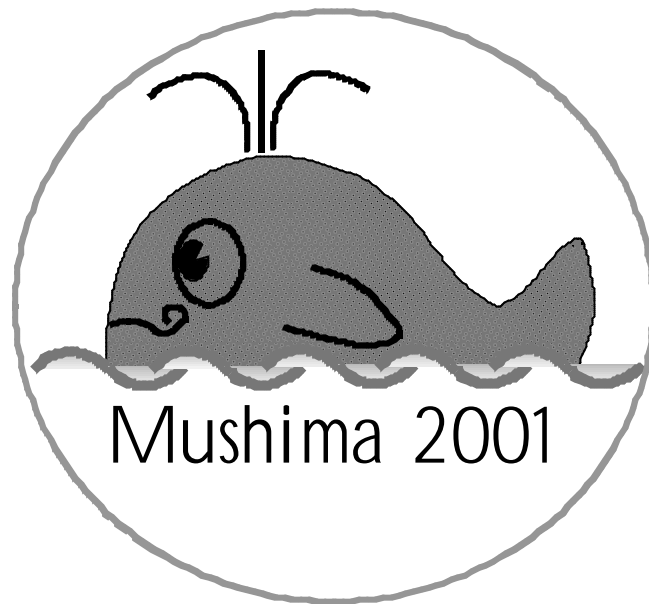
六島分校ホームページ「十二の輝く瞳」
<http://www2.ocn.ne.jp/~mushima/>

ニッシー・ムッシー仲良しひろば（電子掲示板）
<http://hpcgi2.nifty.com/mem/msgbrd.cgi>

英語科授業実践ホームページ
<http://homepage1.nifty.com/mushima/>
Message Board : http://hpmboard.nifty.com/cgi-bin/thread.cgi?user_id=HZH00700

六島分校ホームページ英語版
<http://homepage1.nifty.com/mushima/bunko/>

栃木県西方町立西方中学校ホームページ
<http://www.nishikata-jhs.nishikata.tochigi.jp/>



平成12年度 研究紀要

小値賀町立小値賀中学校六島分校
〒857-4712
長崎県北松浦郡小値賀町六島郷 89 - 1
TEL(0959)56-3689 FAX(0959)56-3689
E-mail : mushima@coral.ocn.ne.jp
担当 : mem@msi.biglobe.ne.jp
